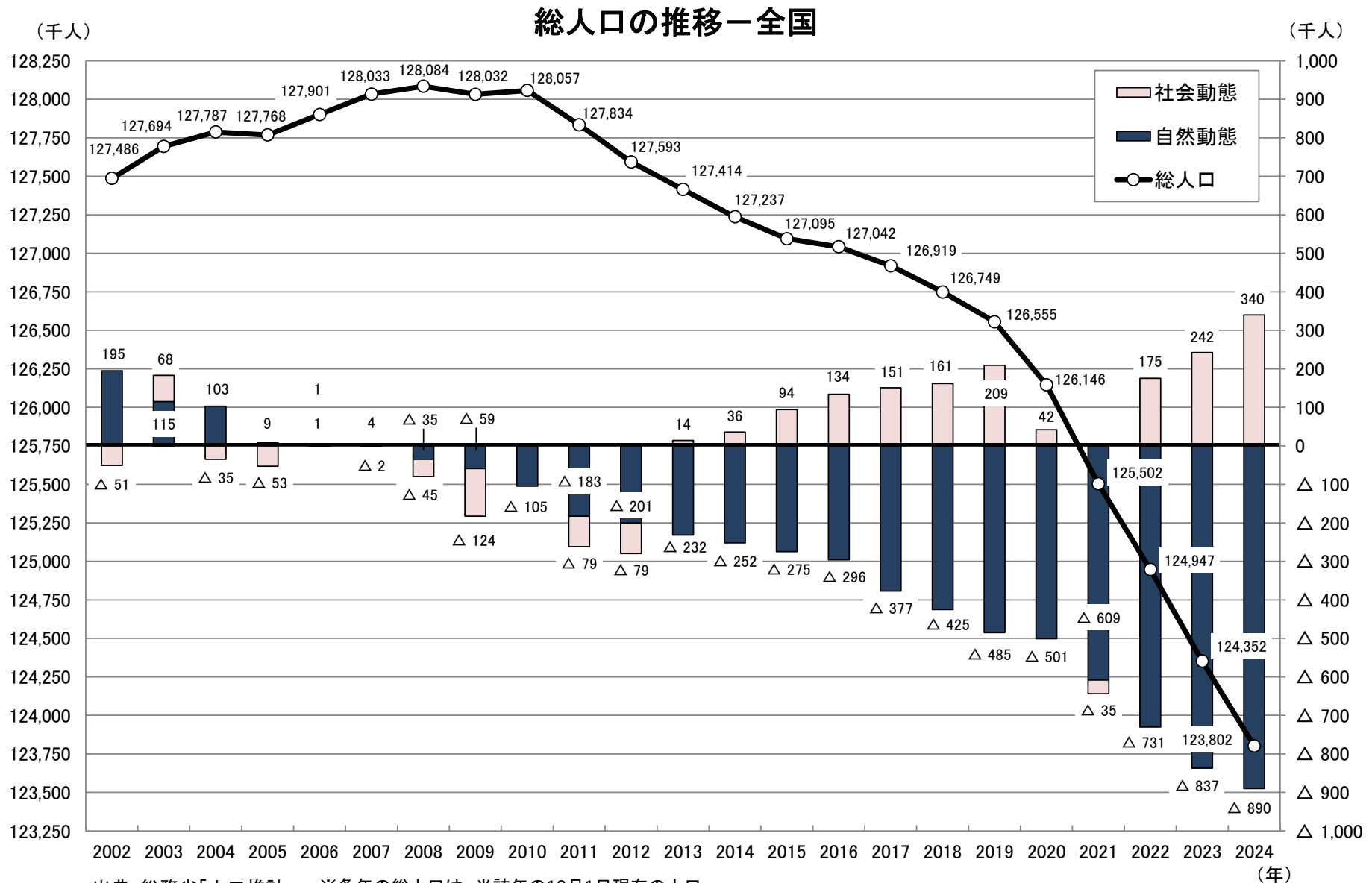




岐阜県の 人口減少の現状

2025年7月更新
岐阜県 環境エネルギー生活部 統計課

日本は人口減少社会にある。生まれる子より 亡くなる人の方が多い時代に（自然動態は△89万人）

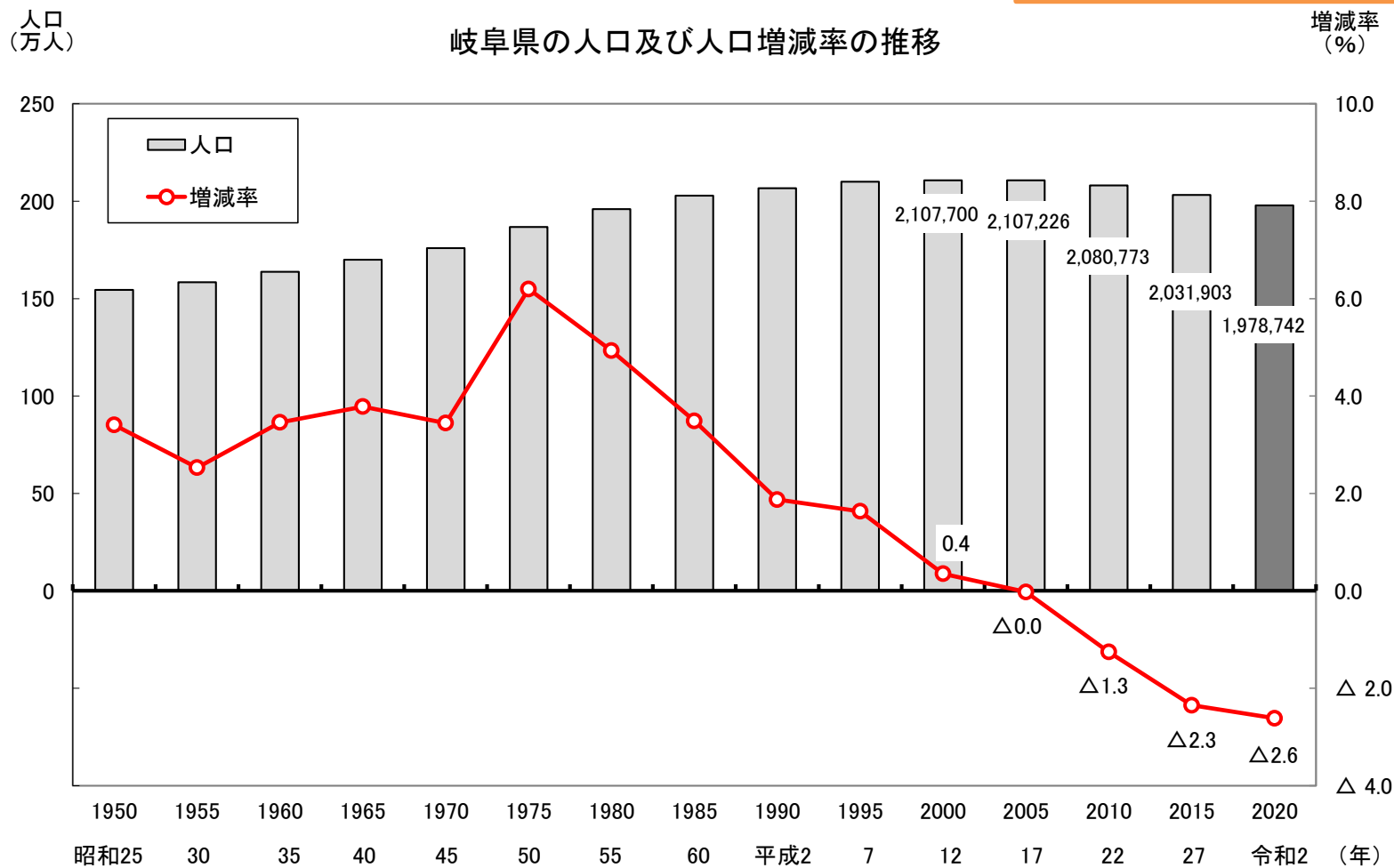


岐阜県人口の推移と見通し

2020年国勢調査による県人口は、197万8742人（全国17位） 前回調査（2015年）以降の5年間で約5万3千人減少

県人口 2015年10月1日現在：2,031,903人
2020年10月1日現在：1,978,742人（△53,161人）

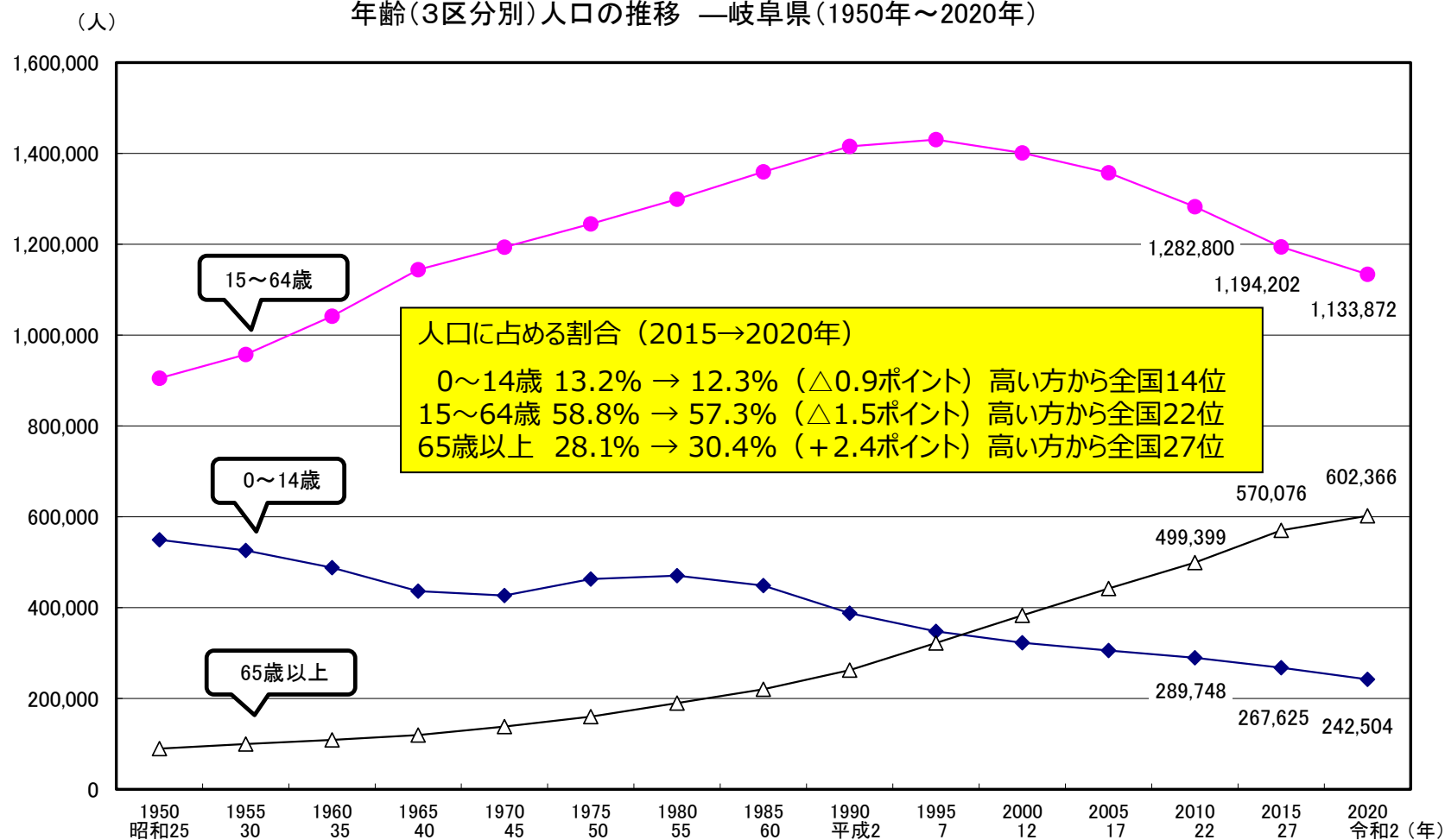
5年間の人口減少数は土岐市人口（55,348人）に匹敵



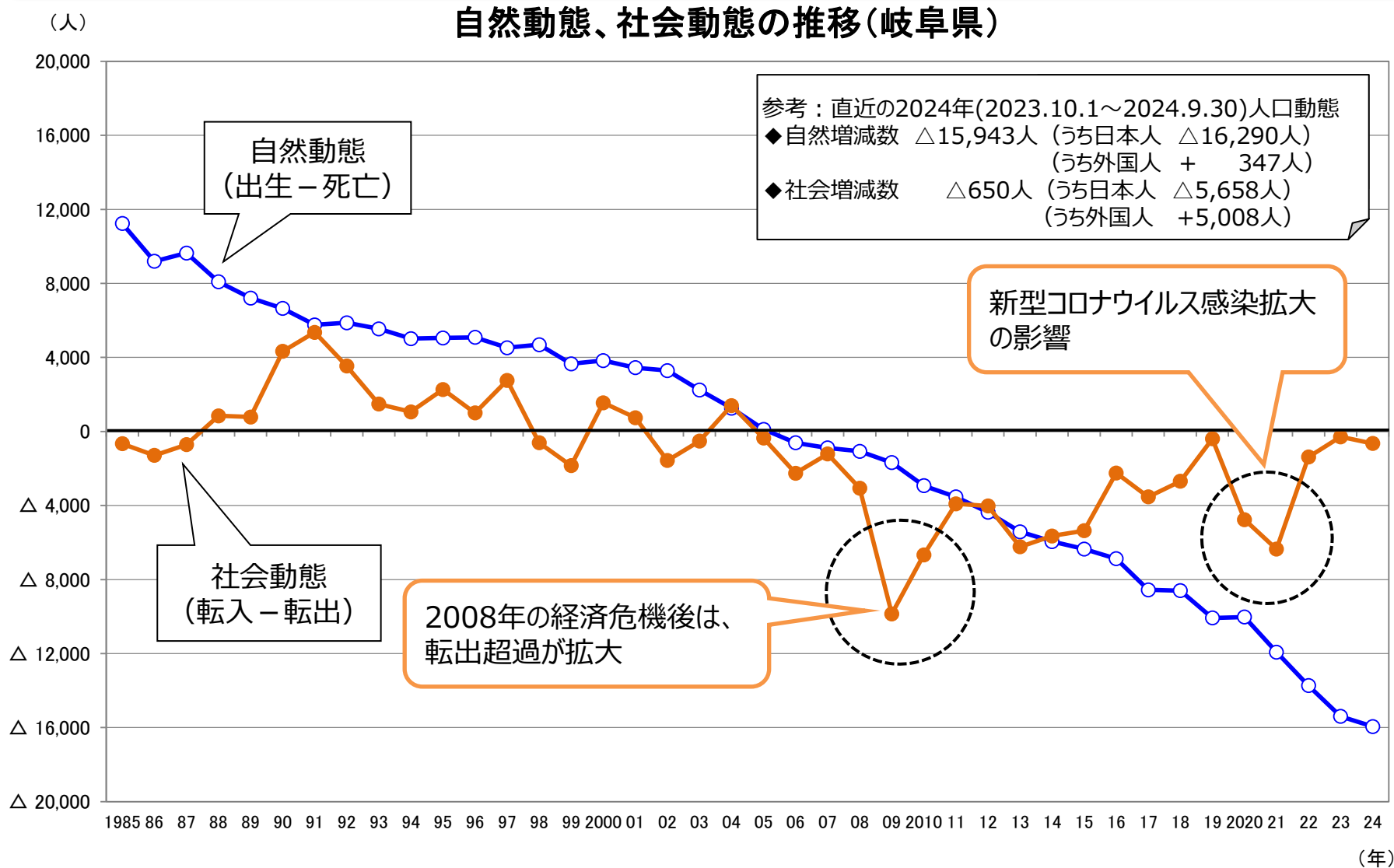
0～14歳の子どもが減り続ける一方で、65歳以上の高齢者は大幅に増加 社会を支える中心層である15～64歳の「現役世代」は約6万人の大幅減

0～14歳	2015年： 267,625人→ 2020年： 242,504人(△25,121人)	減少数は山口市(25,280人)に相当
15～64歳	2015年： 1,194,202人→ 2020年： 1,133,872人(△60,330人)	減少数は美濃加茂市(56,689人)に相当
65歳以上	2015年： 570,076人→ 2020年： 602,366人(+38,290人)	増加数は郡上市(38,997人)に相当

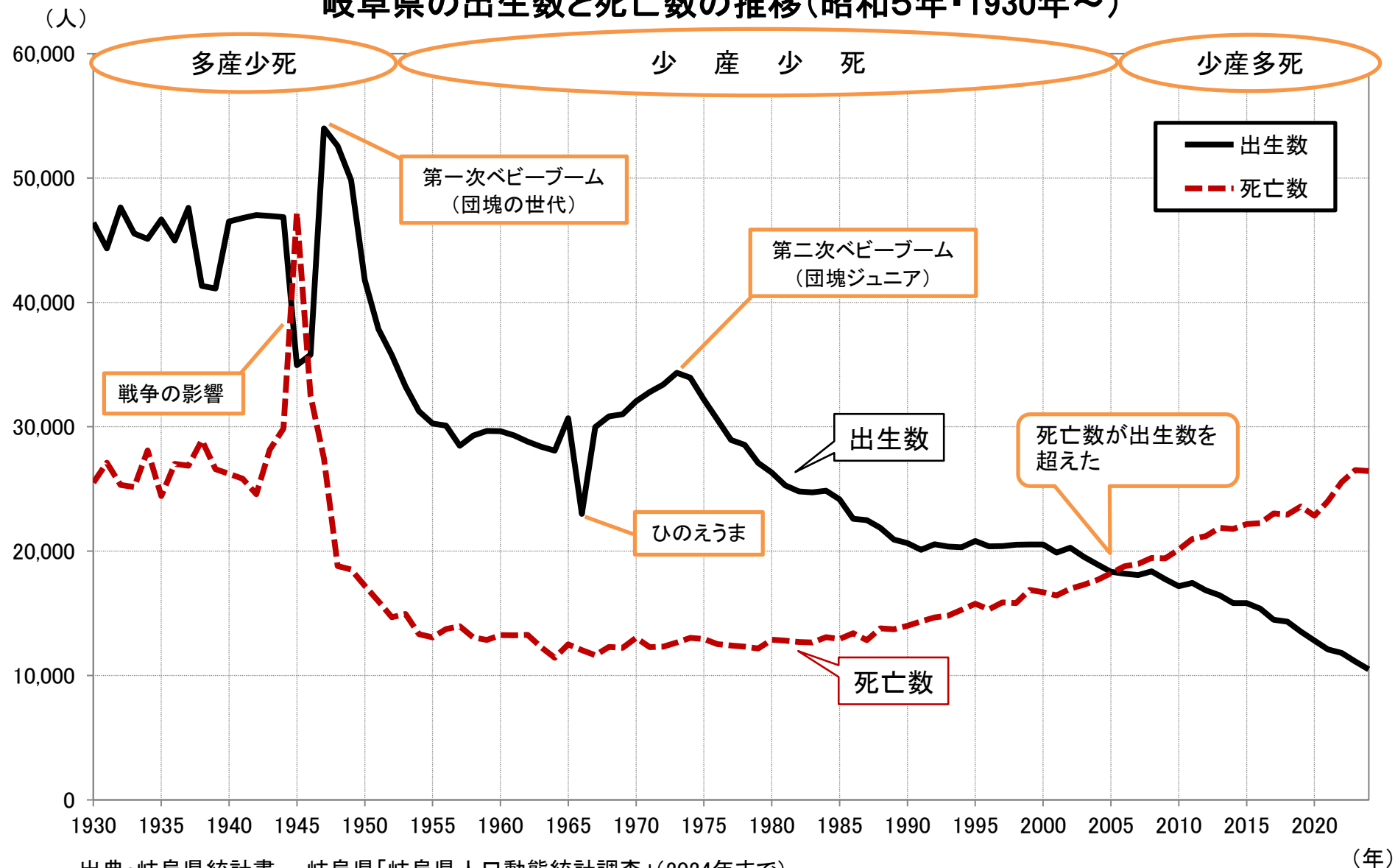
年齢(3区分別)人口の推移 岐阜県(1950年～2020年)



死亡数が出生数を上回る自然減少が年々拡大していることに加え、転出者が転入者を上回る社会減少(転出超過)が続くことが原因



岐阜県の出生数と死亡数の推移(昭和5年・1930年～)



出生率は人口維持に必要な2.07を大きく下回る1.27に

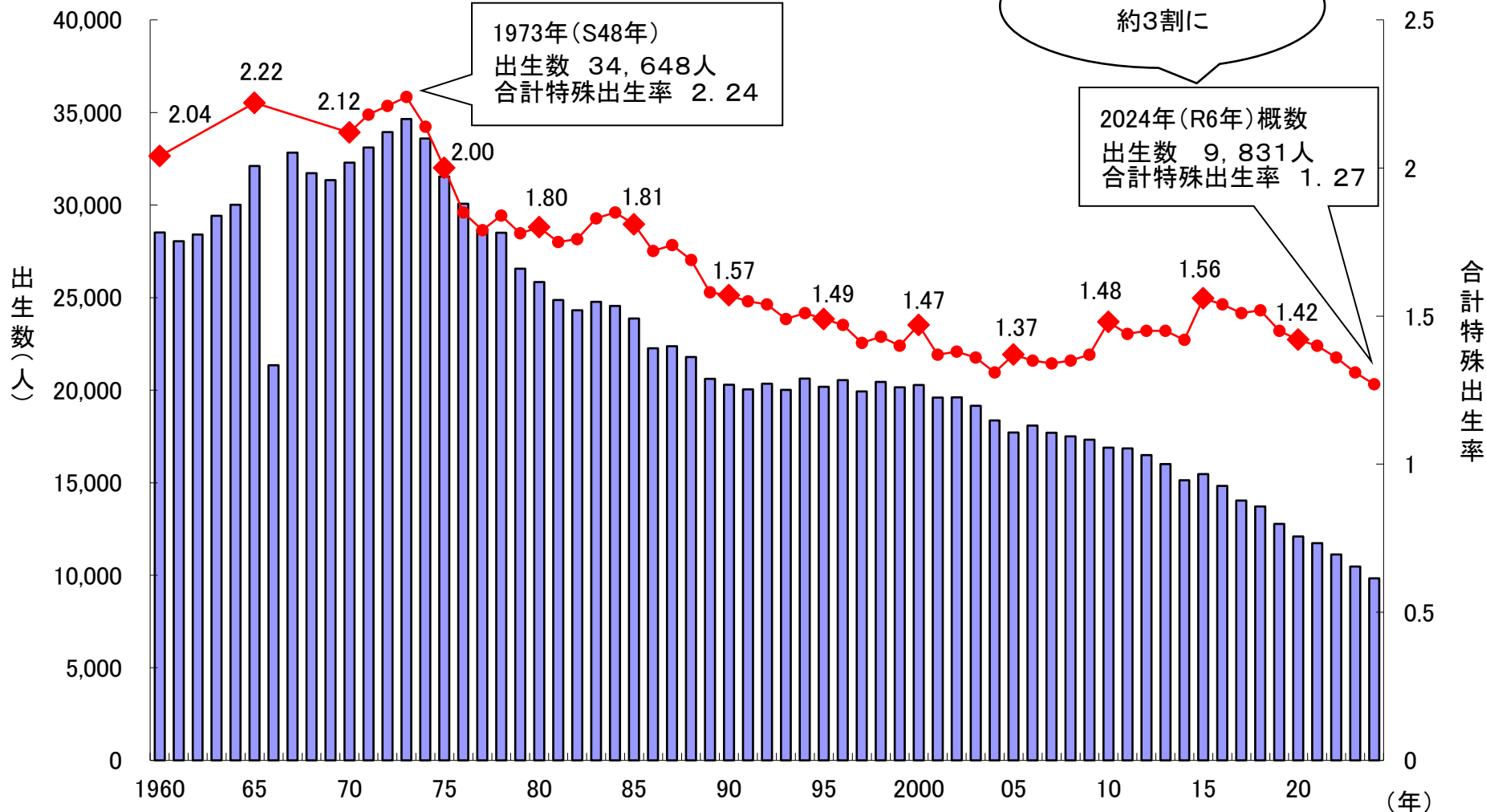
出生数及び合計特殊出生率の推移

出生のピーク(1960年以降)

1973年(S48年)
出生数 34,648人
合計特殊出生率 2.24

出生数はピーク時の
約3割に

2024年(R6年)概数
出生数 9,831人
合計特殊出生率 1.27

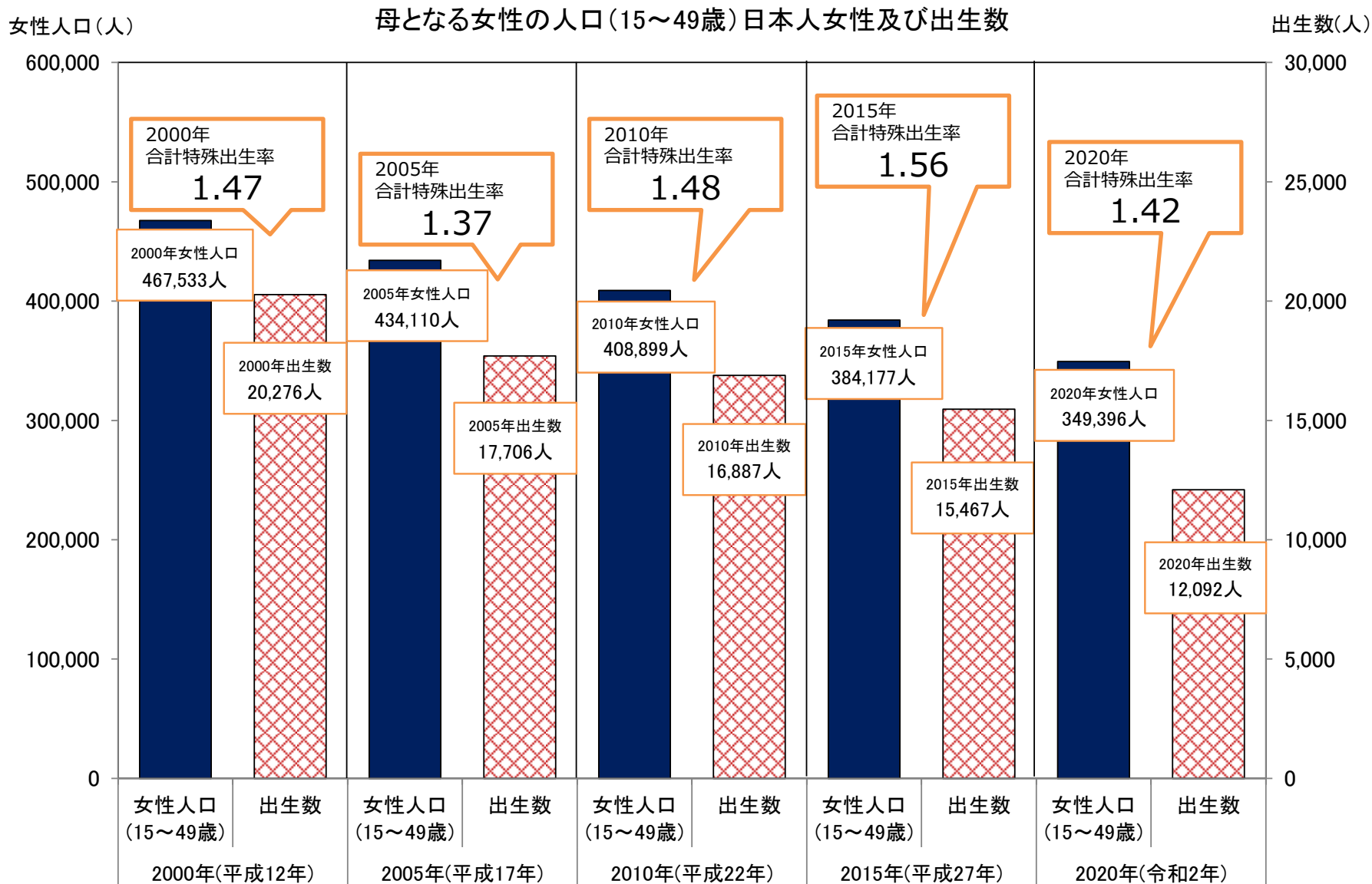


出典: 厚生労働省「人口動態統計」

※2010、2015、2020年などの国勢調査年及び2016年以降の出生率は、日本人女性人口を分母として算出されていることに注意。

人口置換水準2.07 は、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」2025年版より引用。

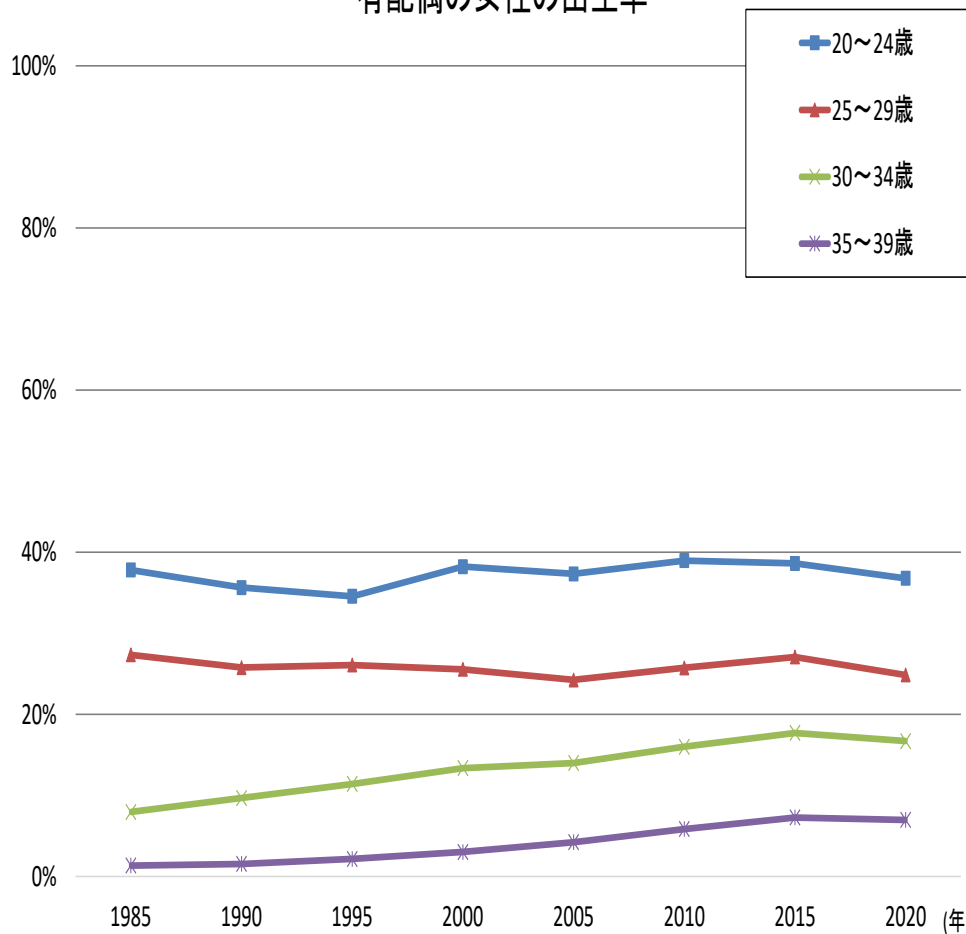
女性人口が減少しているため、出生数は減少する。 合計特殊出生率が上昇していた期間でも出生数は増加していない。



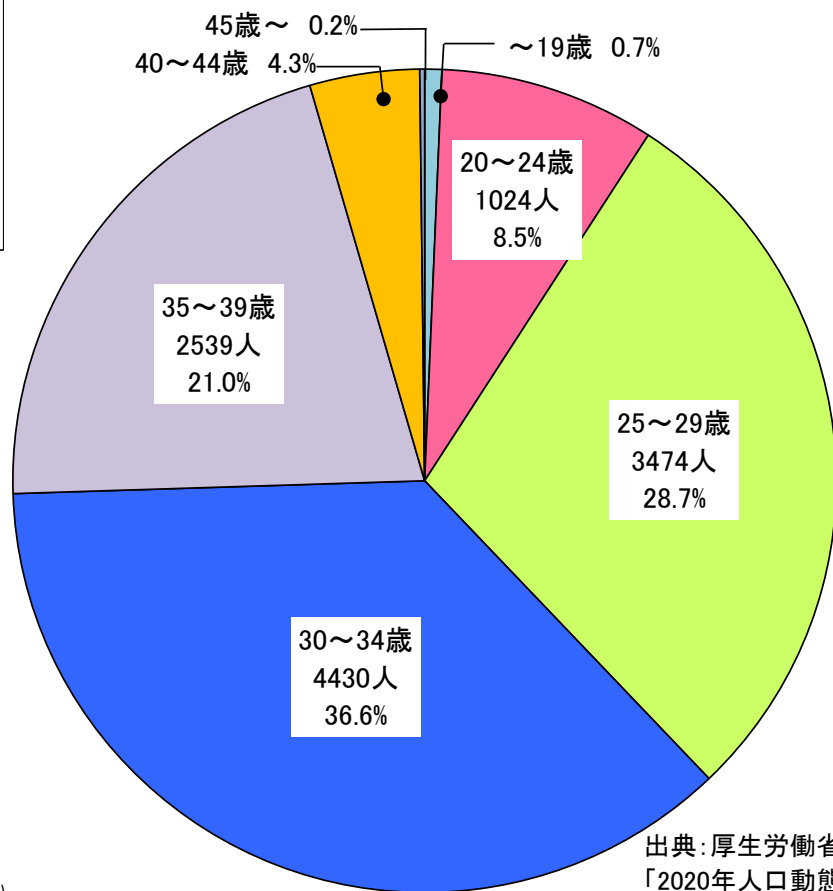
日本は、98%が嫡出子（夫婦から生まれた子ども）。出生には結婚が大きく影響。

出産の中心は20～30代。団塊ジュニアが40代に入り、20～30代女性はさらに減少。同じ出生率でも、出生数は減少してしまう。

有配偶の女性の出生率



母親の年齢別出産数(2020年)



出典:厚生労働省
「2020年人口動態統計」

総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」

※有配偶の女性の出生率は、日本人女性15歳～49歳について各年齢ごとに次の式を用いて算出。

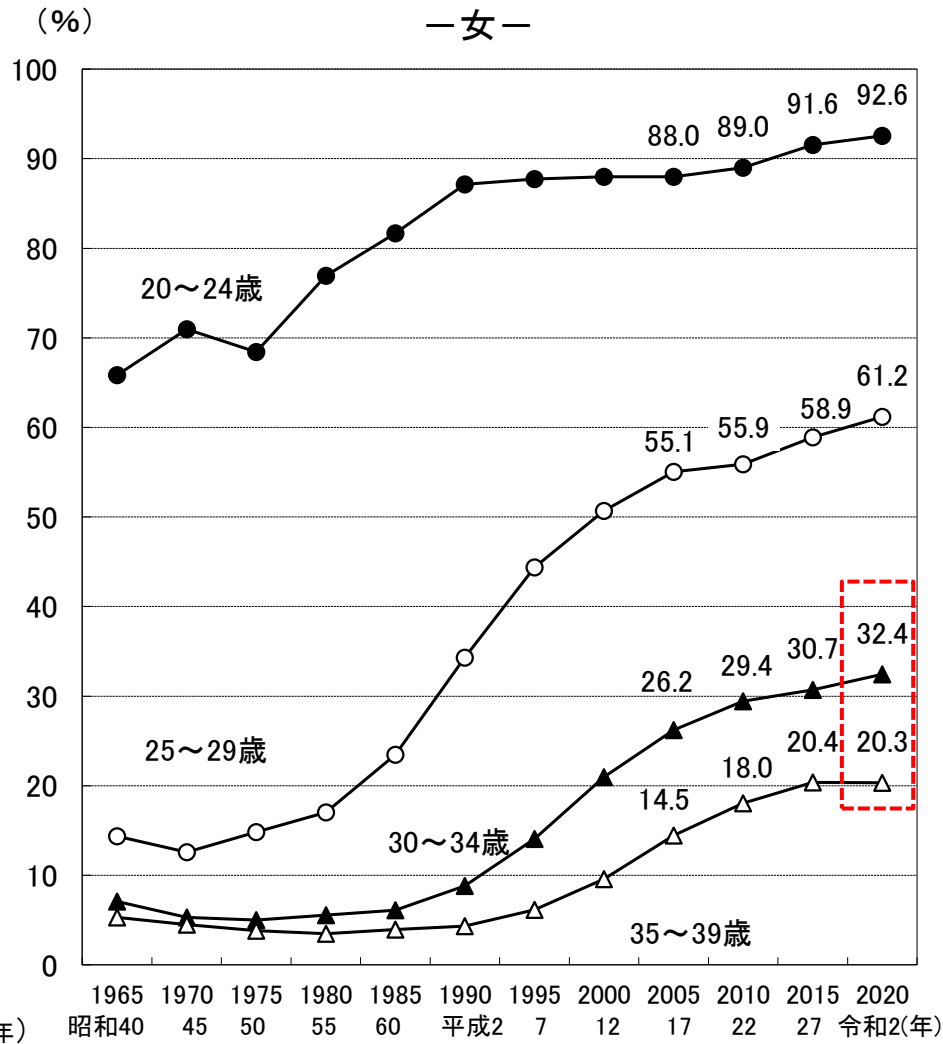
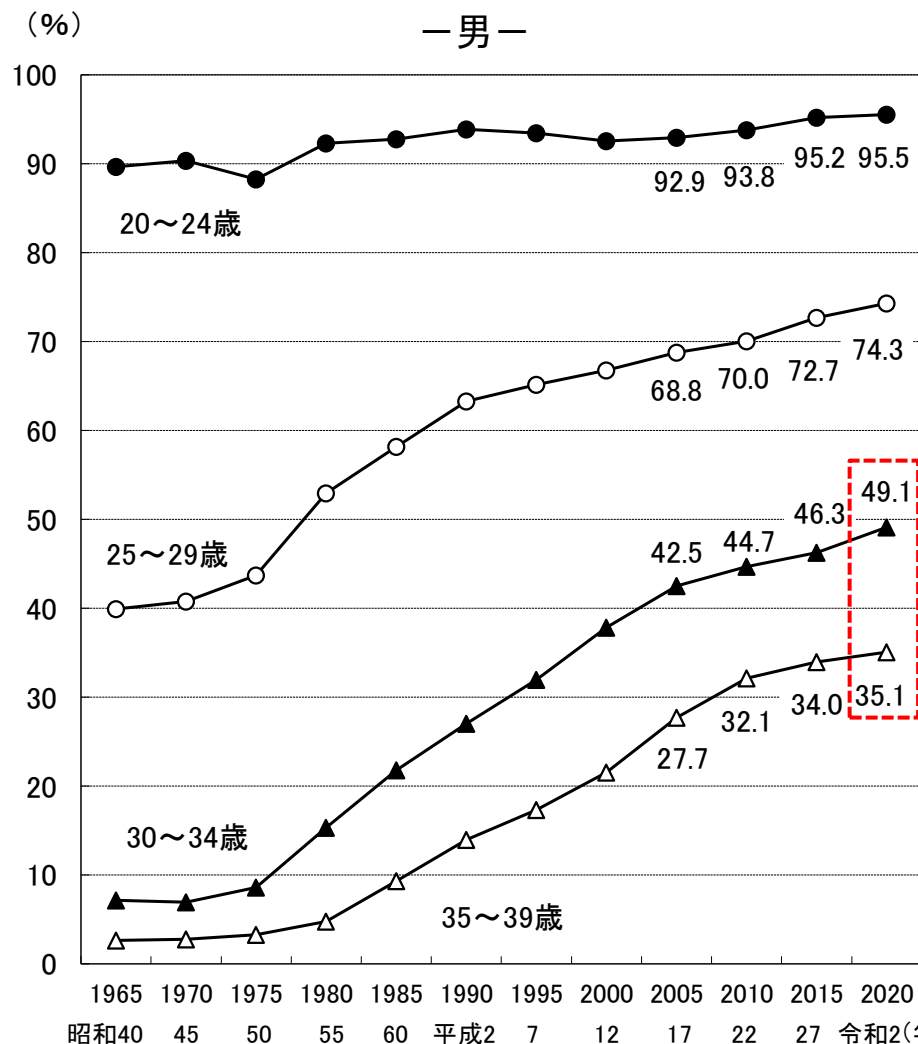
有配偶女性の出生率＝出生数÷有配偶女性人口

※有配偶の女性人口は不詳除く。ただし、2015年及び2020年は不詳補完による。

20～30代の母親の出産が約95%

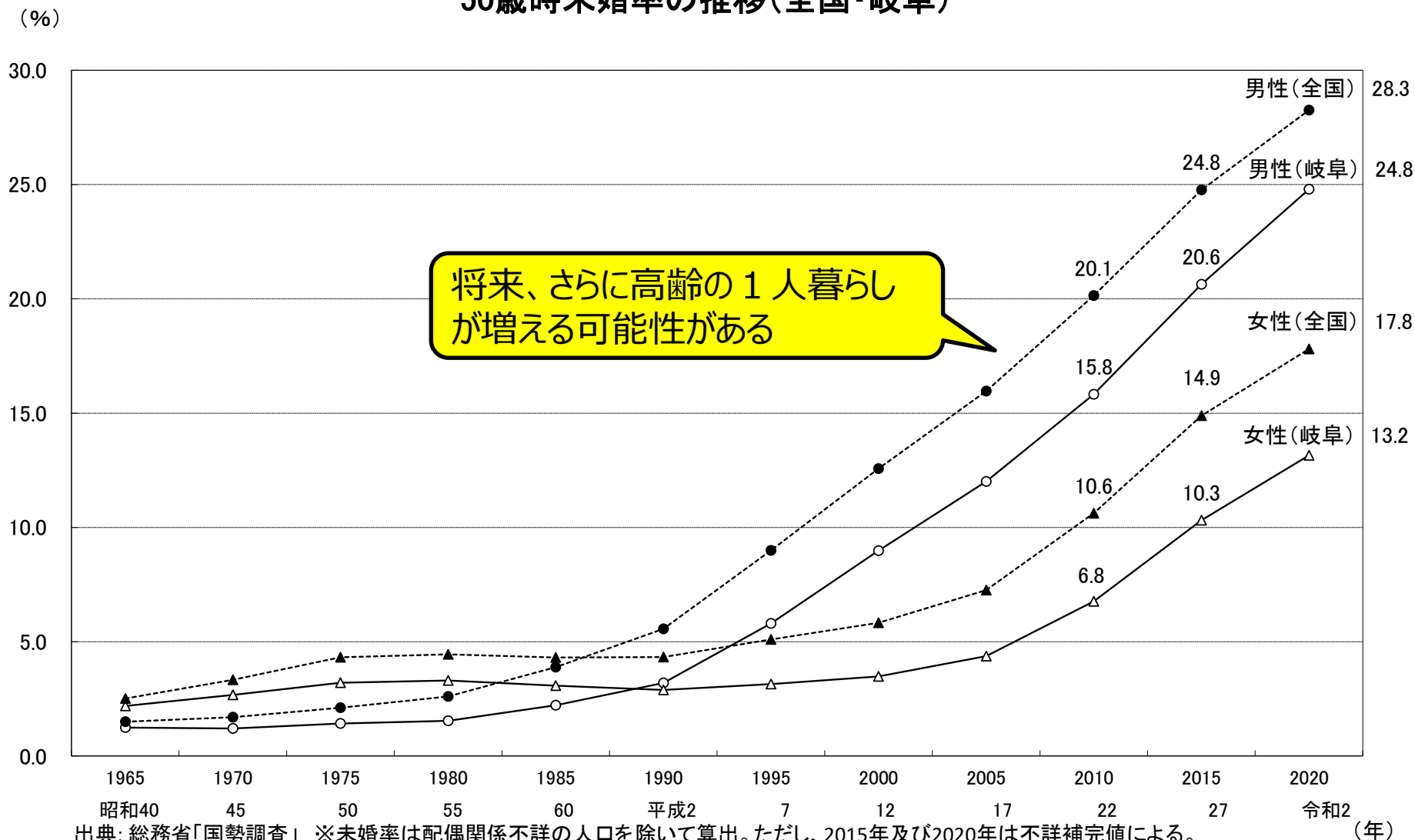
若い世代の未婚率はさらに上昇 30代前半では男性の5割近く、女性の3割が未婚

年齢別未婚率の推移(岐阜県)



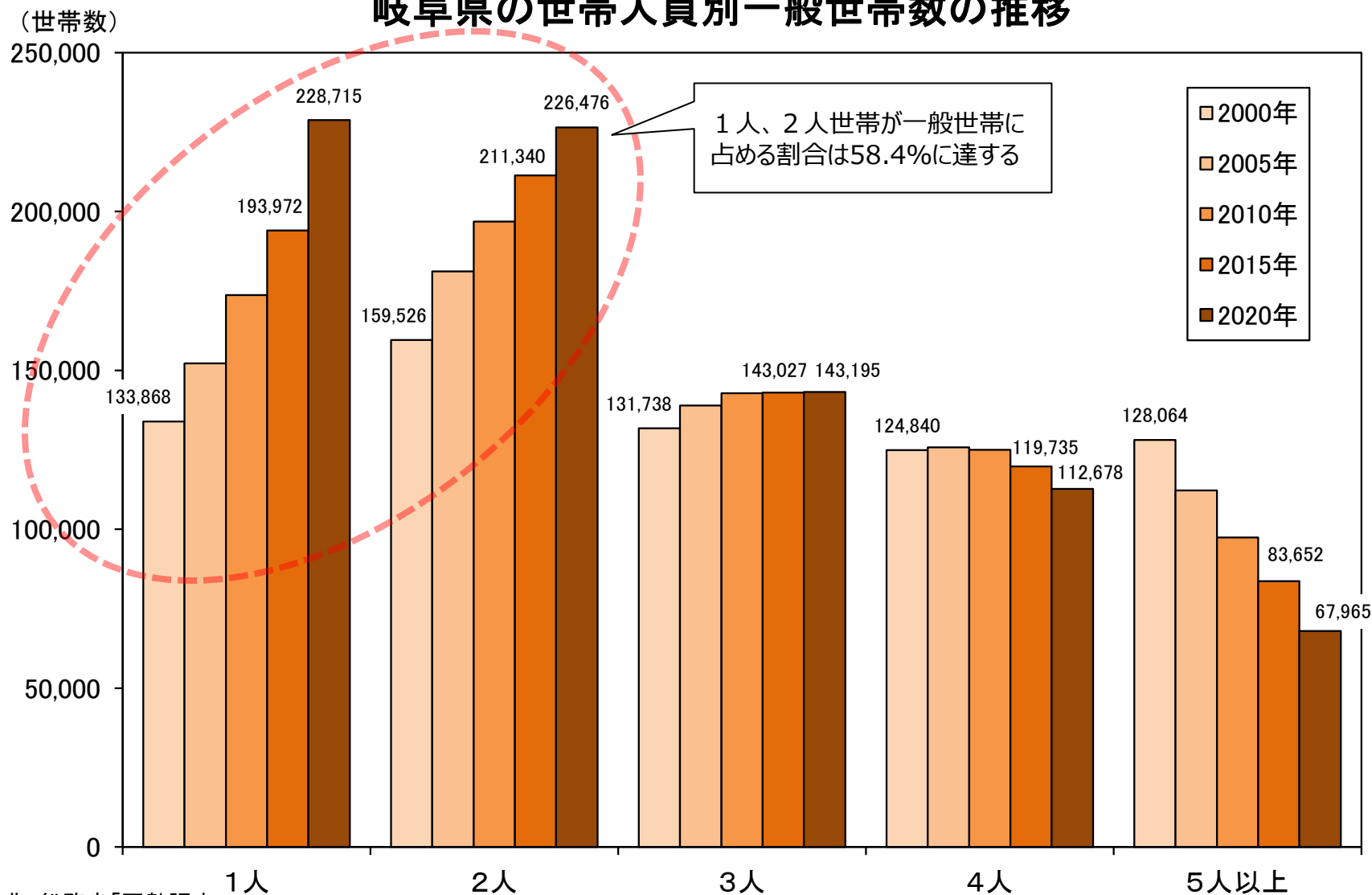
50歳時点の未婚率も、 県は男性の24.8%、女性は13.2%とさらに上昇

50歳時未婚率の推移(全国・岐阜)



4人以上の世帯が減少し、1人・2人世帯が大幅に増加
～1人・2人世帯は全世帯数の約6割を占める。20年間で約1.6倍に増加～

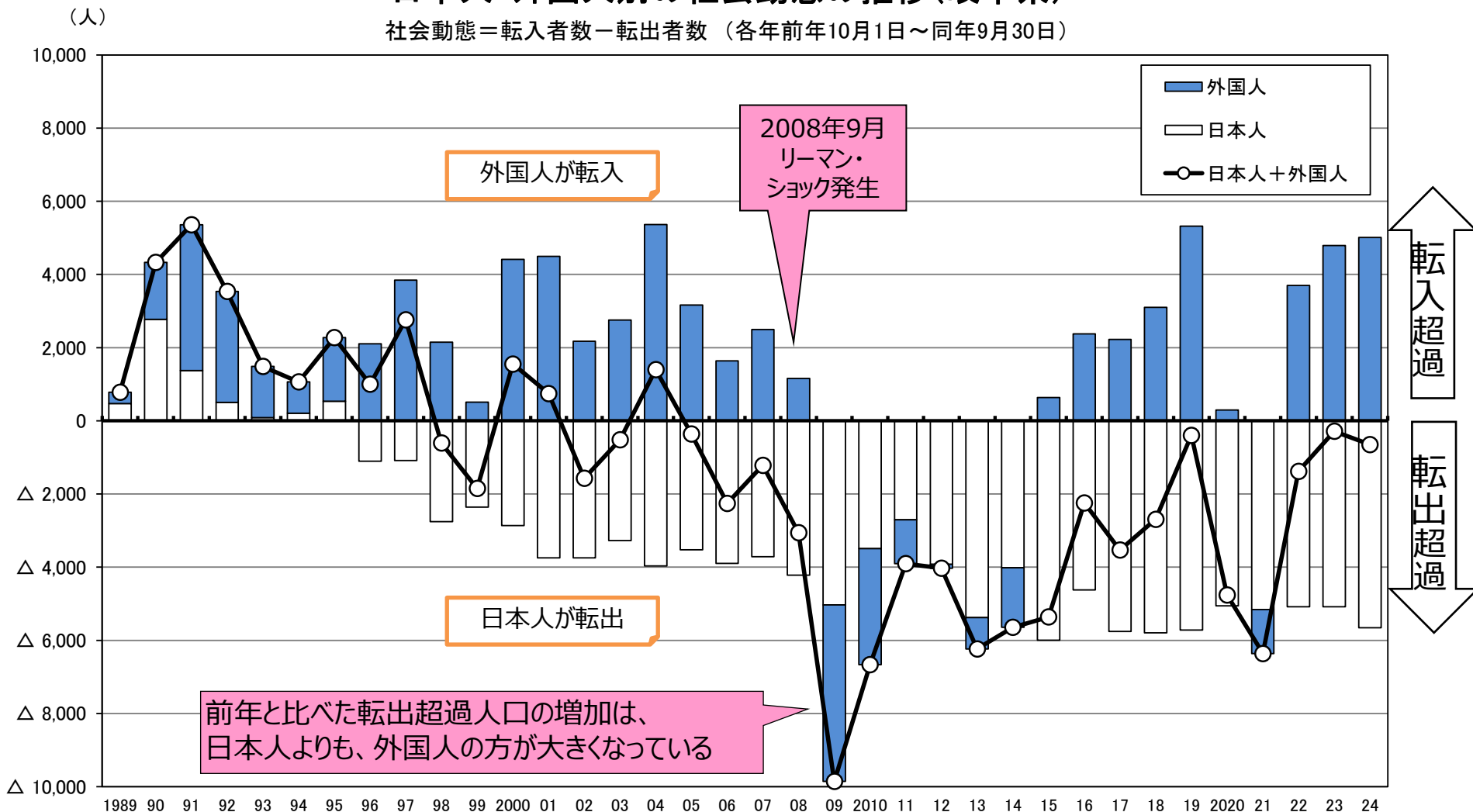
岐阜県の世帯人員別一般世帯数の推移



外国人は2015年以降転入超過傾向

日本人・外国人別の社会動態の推移(岐阜県)

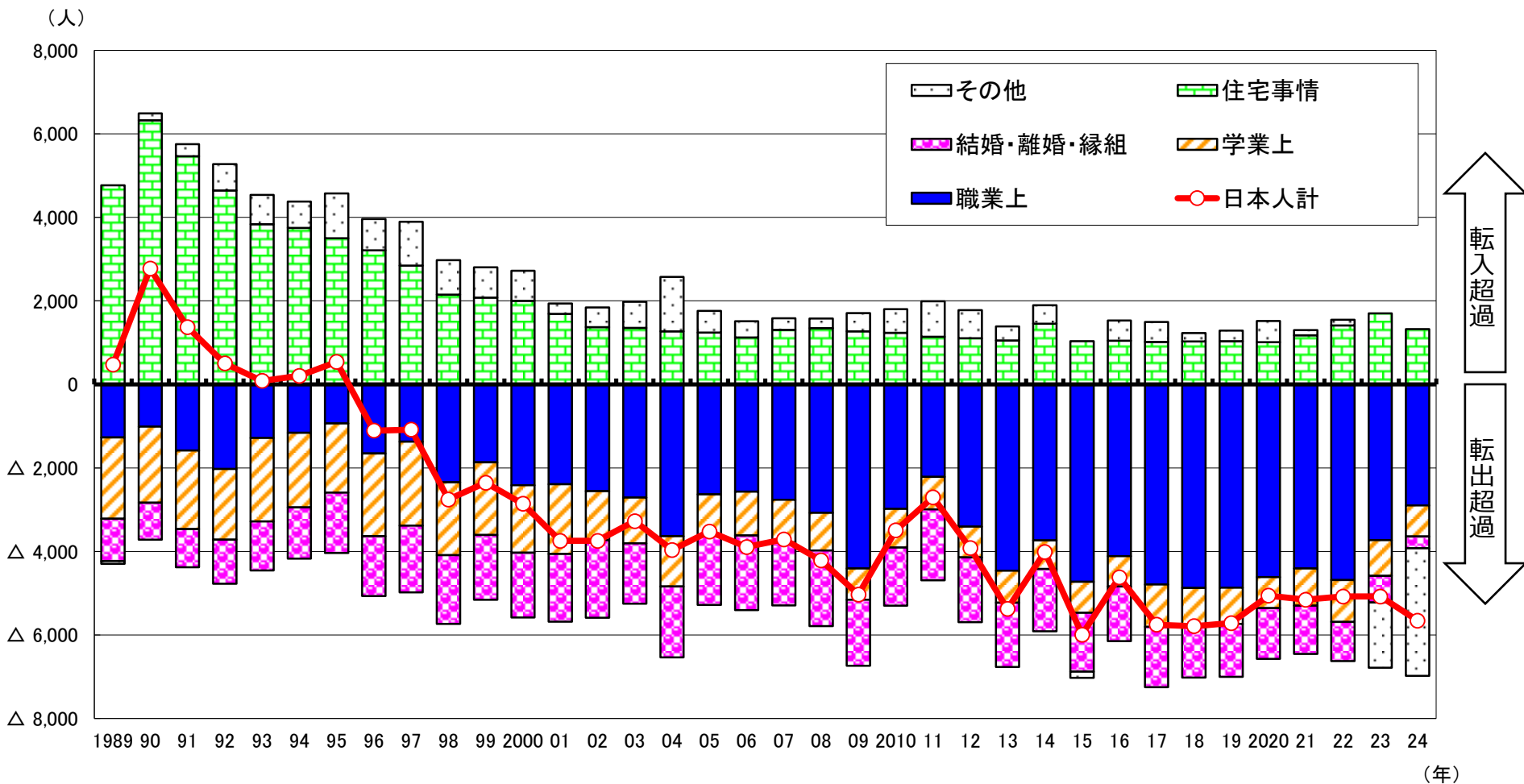
社会動態＝転入者数－転出者数（各年前年10月1日～同年9月30日）



出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」

住宅事情による転入が減り、1996年以降職業上、結婚等、 学業上による転出超過が続く構造に変化はない。

日本人の移動理由別社会動態(岐阜県)

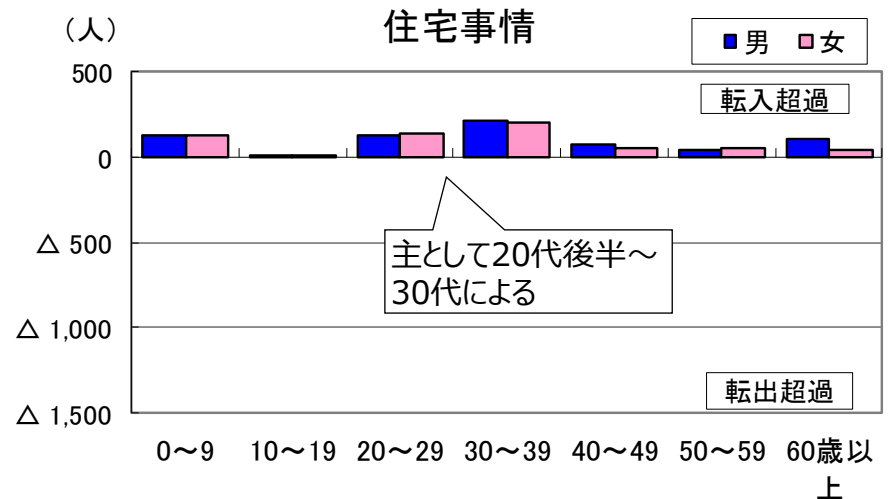
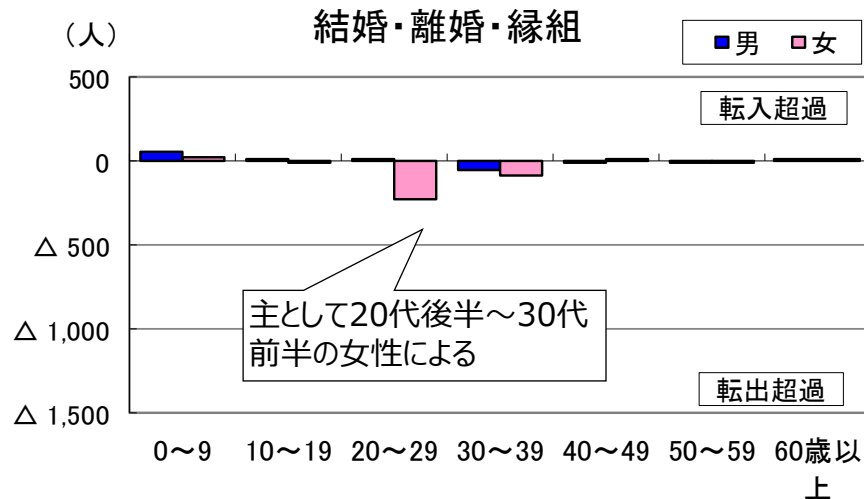
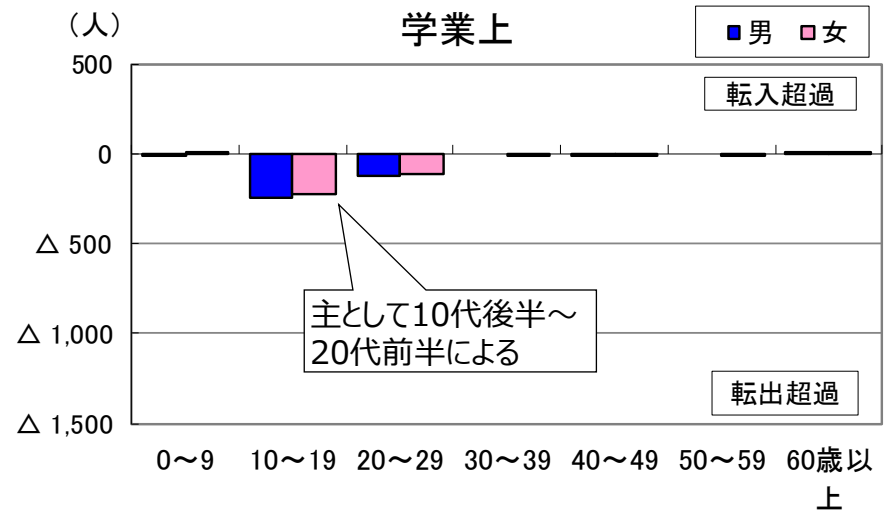
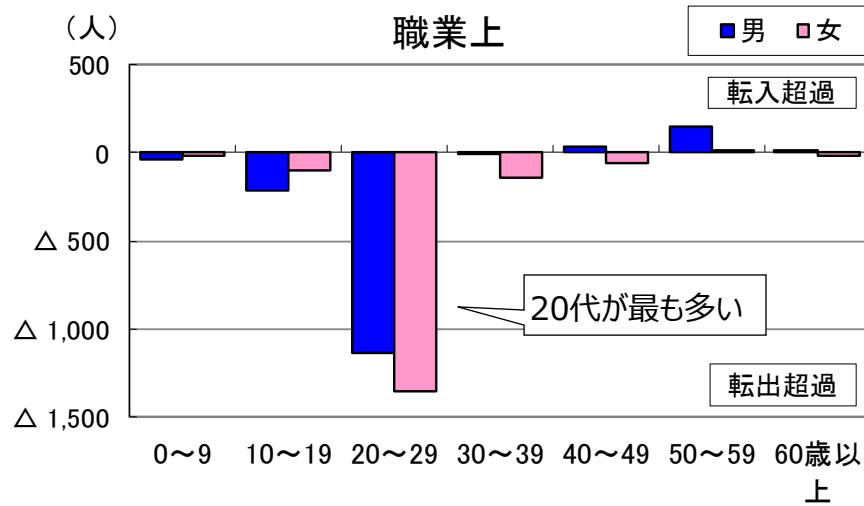


出典: 岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」「岐阜県転入転出理由実態調査」

※社会動態＝転入者数－転出者数

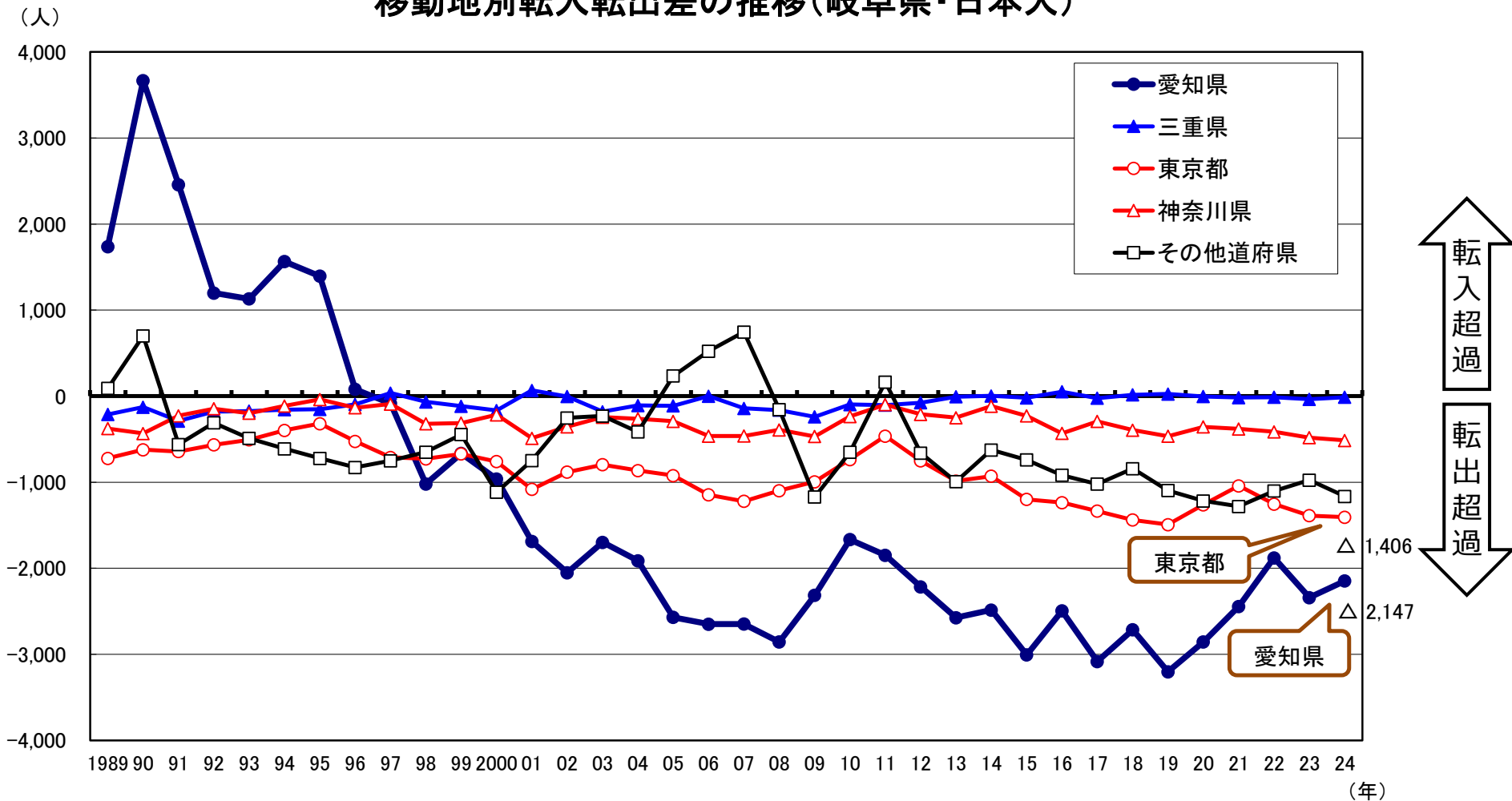
転出超過の中心は20代の若い世代 職を求めて県外へ出ていくとみられる

主な移動理由でみた世代別日本人の社会動態(岐阜県 2024年)



愛知県への大幅な転出超過が続いている

移動地別転入転出差の推移(岐阜県・日本人)



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」(日本人)

県内の高校生は約 8 割が県外へ進学

○岐阜県内大学入学者の出身高校

	出身高校	人数	割合
1	岐阜県	2,096人	47.0%
2	愛知県	1,201人	26.9%
3	静岡県	104人	2.3%
4	長野県	103人	2.3%
5	三重県	101人	2.3%
6	滋賀県	81人	1.8%
7	富山県	71人	1.6%
8	福井県	61人	1.4%
9	大阪府	53人	1.2%
9	沖縄県	53人	1.2%
11	石川県	37人	0.8%
12	兵庫県	27人	0.6%
13	北海道	26人	0.6%
14	京都府	24人	0.5%
14	鹿児島県	24人	0.5%

県内からの入学者	2,096人	47.0%
県外からの入学者	2,365人	53.0%

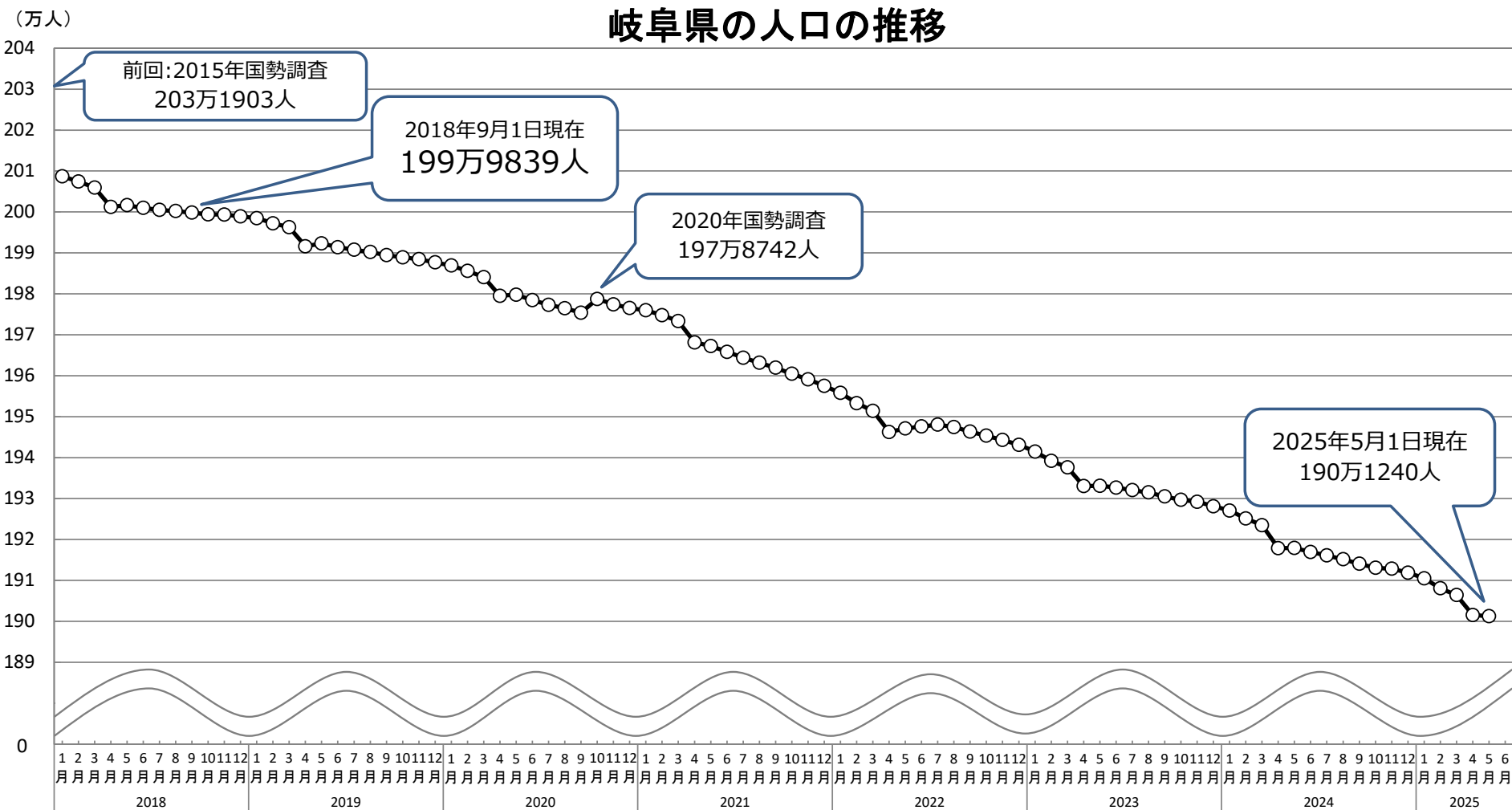
○岐阜県内高校卒業生の進学先

	進学先	人数	割合
1	愛知県	4,404人	46.7%
2	岐阜県	2,096人	22.2%
3	東京都	482人	5.1%
4	京都府	322人	3.4%
5	滋賀県	230人	2.4%
6	大阪府	213人	2.3%
7	神奈川県	161人	1.7%
8	石川県	159人	1.7%
9	富山県	148人	1.6%
10	静岡県	141人	1.5%
11	兵庫県	110人	1.2%
12	長野県	105人	1.1%
13	福井県	100人	1.1%
14	千葉県	84人	0.9%
15	三重県	71人	0.8%

県内への入学者	2,096人	22.2%
県外への入学者	7,329人	77.8%

出典：文部科学省「2024年度 学校基本調査」

県の人口は2025年5月1日現在で190万1240人

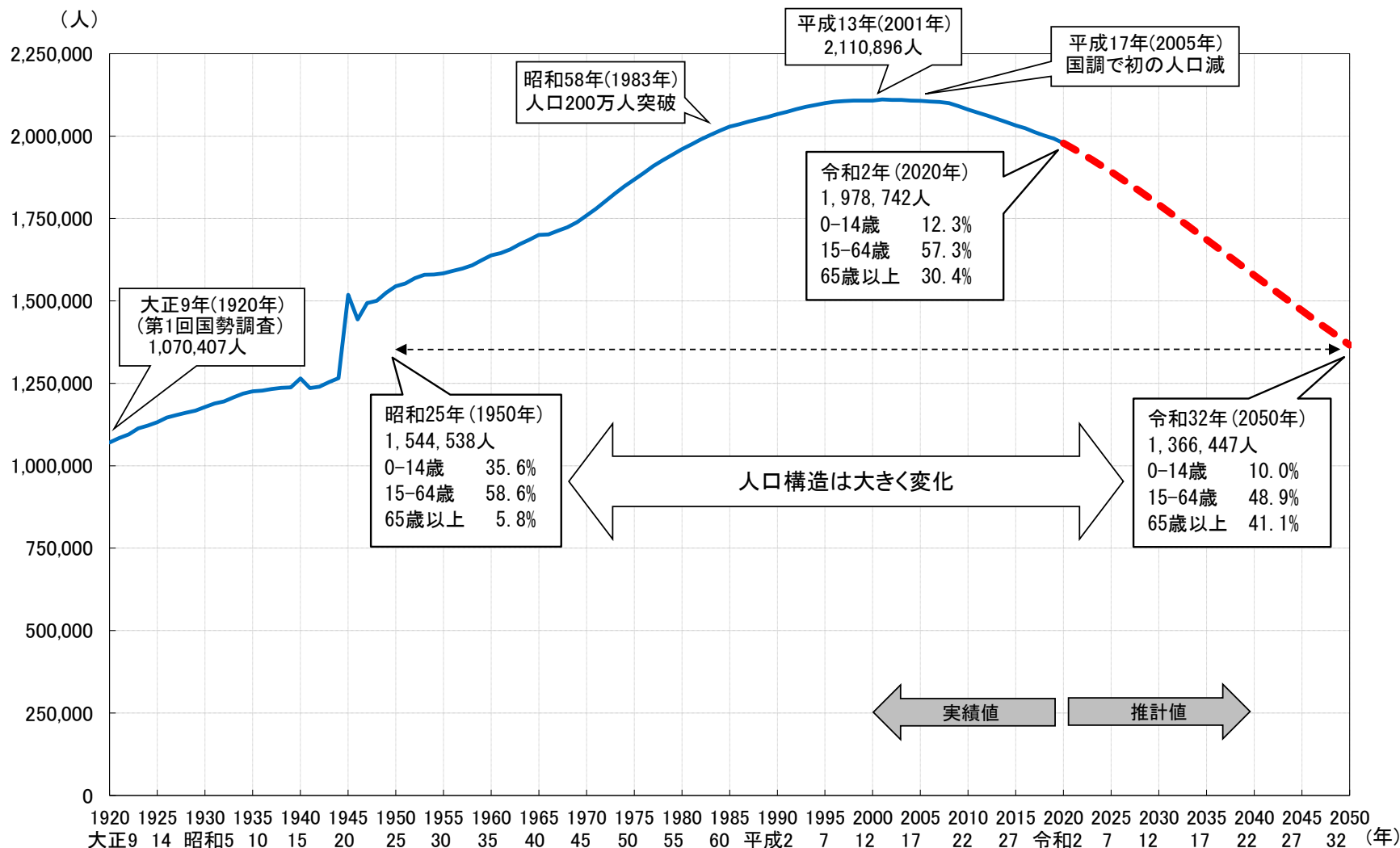


出典:総務省「国勢調査」、岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」(各月1日現在)

(年)

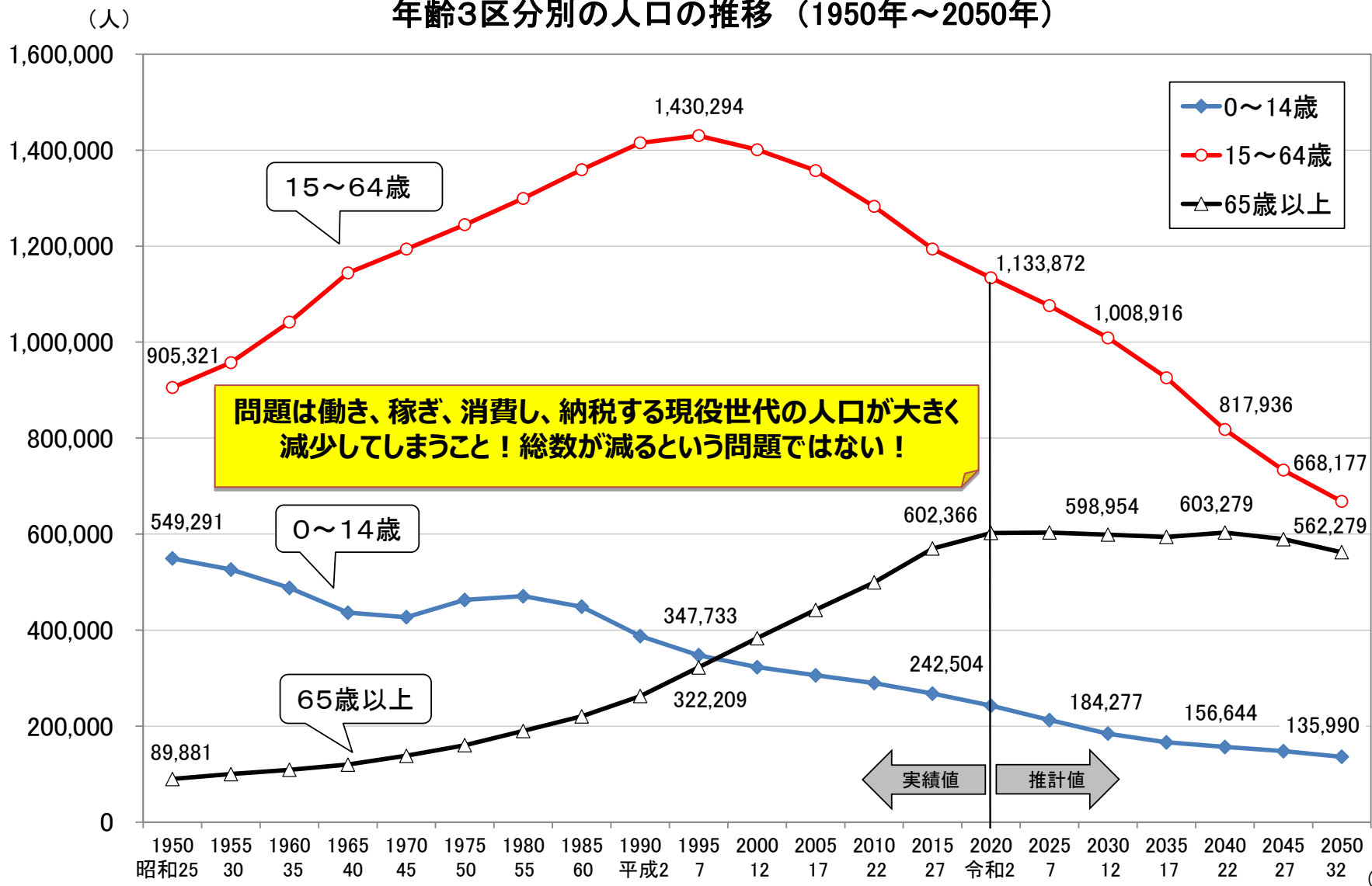
本県の人口は2005年頃から減少を続けている 30年後の2050年には137万人に(61万人の大幅減)

岐阜県の人口の推移と将来の見通し



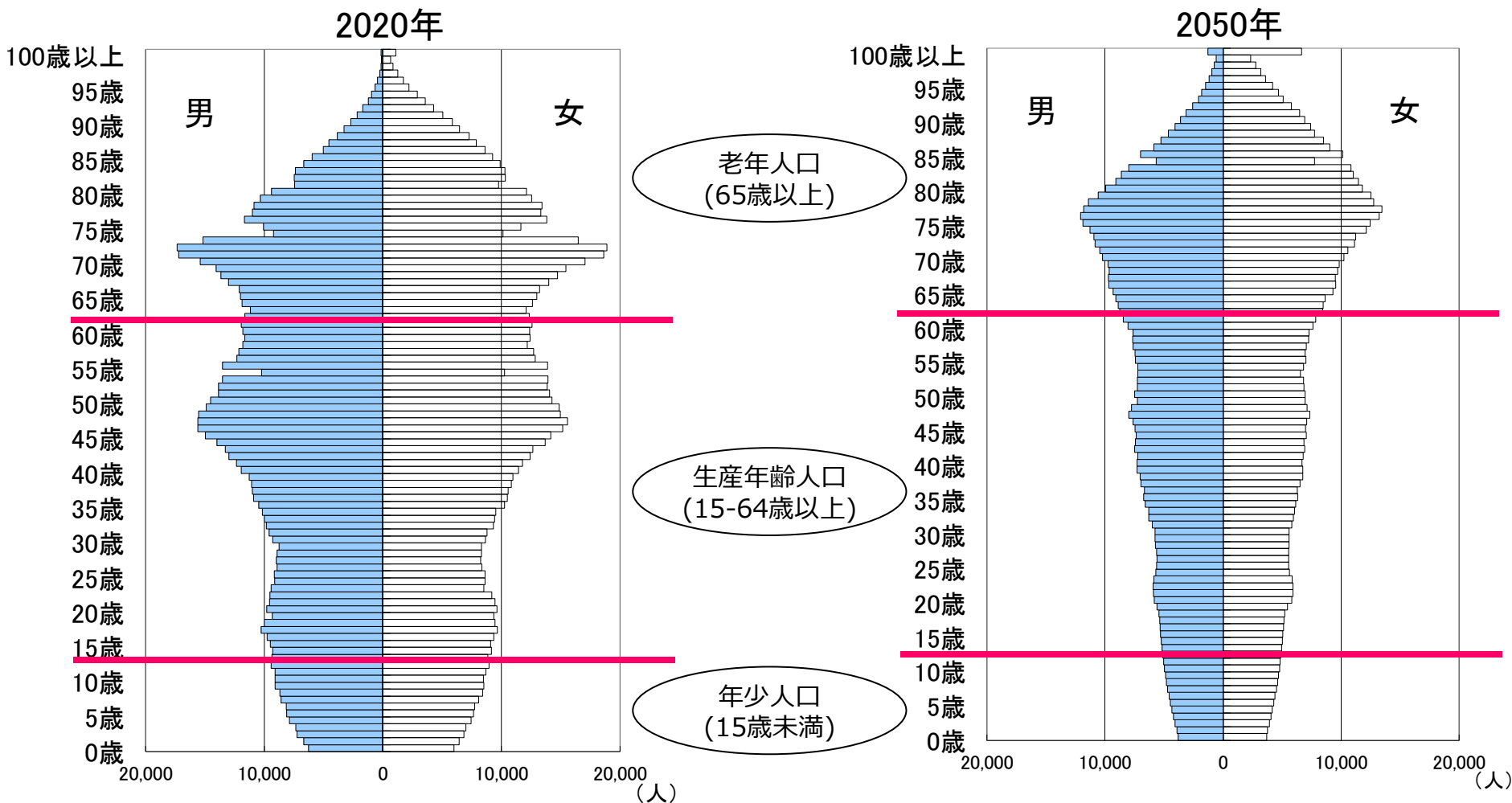
地域を支える現役世代(15～64歳)は47万人の減少。0～14歳の子どもは11万人減り、65歳以上の高齢者は4万人の減少

年齢3区分別の人口の推移（1950年～2050年）



出典：国勢調査、岐阜県政策研究会人口動向研究部会（2022年3月） 注：2020年(令和2年)の年齢3区分人口は、年齢不詳をあん分した不詳補完値による。

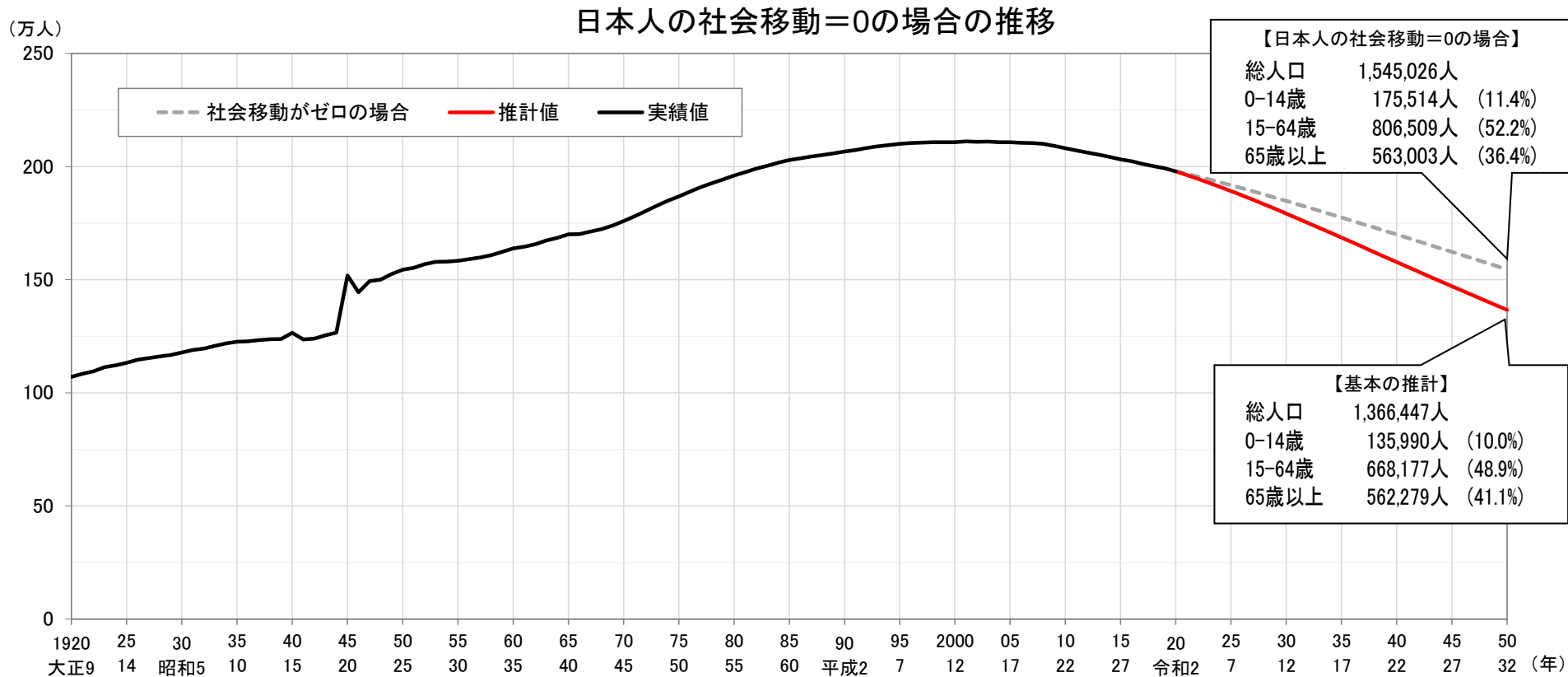
2050年の人口ピラミッドをみると、 65歳以上の人口に大きな厚みがある構造に変化



出典: 総務省「令和2年(2020年) 国勢調査」

出典: 岐阜県政策研究会人口動向研究部会(2022年3月)

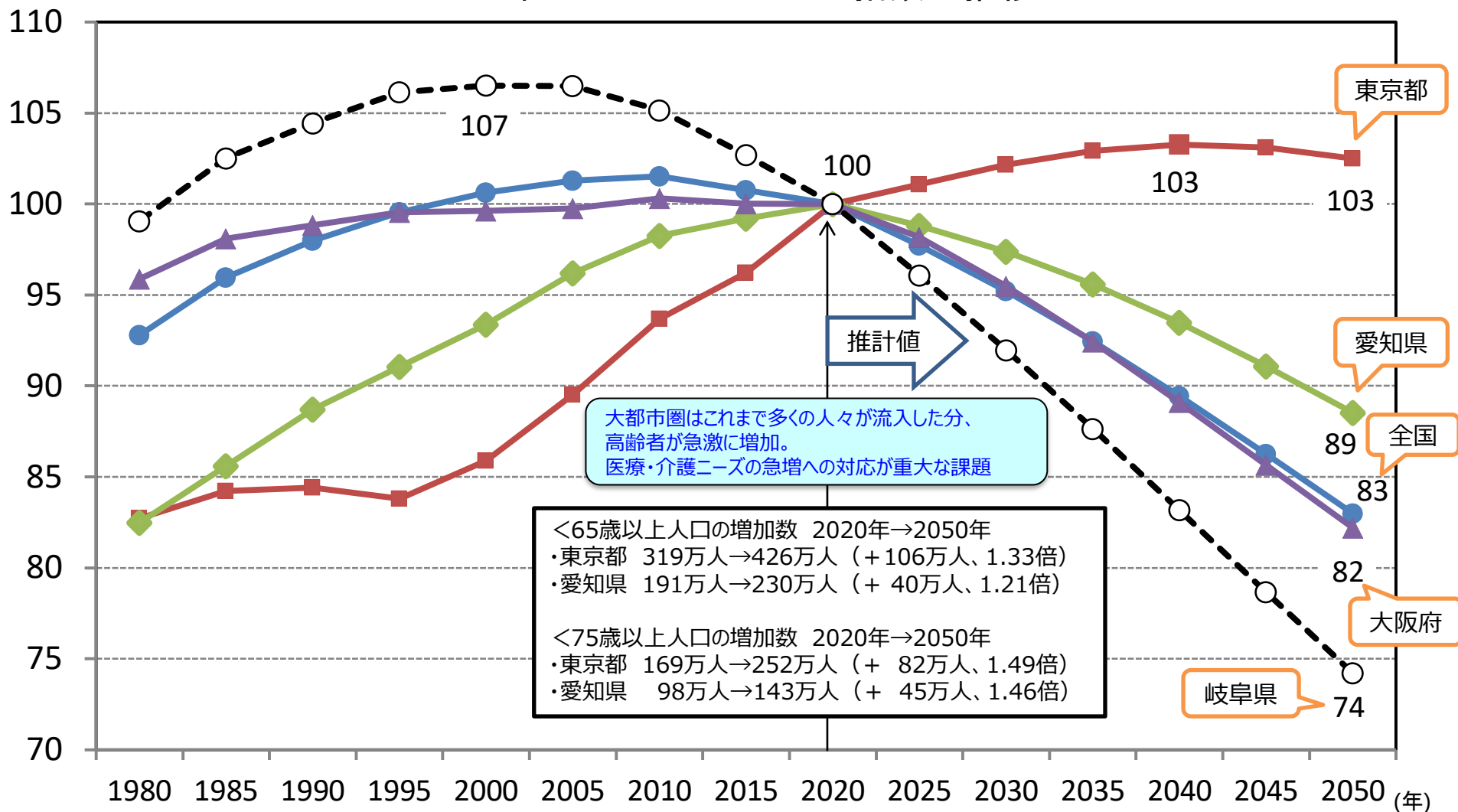
日本人の転出超過がない（社会移動=0）と仮定しても、 自然動態（出生-死亡）だけで43万人減少



出典：総務省「国勢調査（1945年は「人口調査」）」、総務省「人口推計（国勢調査による補間補正人口）」

時間差こそあれ、全国で人口は減少していく

2020年人口=100とした人口指数の推移



長期にわたり人口が減少していく傾向が改めて確認され、 前回の推計よりも人口減少のペースは速くなった

30年後の岐阜県人口は137万人と、2020年と比べ61万人の大幅減

- ・ 2050年の岐阜県の人口は1950年（昭和25年）頃の人口に相当。しかし、65歳以上人口の割合が5.8%から41.1%になるなど、人口構造は全く異なる。
- ・ 地域を支える現役世代（15-64歳）は47万人減少するとみられる。
- ・ 65歳以上人口は今後横ばいで推移するが、85歳以上人口は2035年頃まで増加を続けるとみられる。団塊ジュニア世代が65歳を超える2040年頃から、再び高齢者が増加。

前回（2015年国勢調査基準）に行った将来推計と比較しても、人口が減少する トレンドには変化がない

- ・ 今回の推計と前回の推計を比較すると、平均寿命が上昇したものの、合計特殊出生率の低下及び転出超過率の上昇により、人口減少のペースは速くなった。

日本人の転出超過がない（社会移動=0）としても、出生-死亡だけで43万人減少

- ・ 高齢者の増加に伴い、死亡数も増加。出生数を死亡数が上回る自然現象はさらに拡大していく。

地域別に見た人口の推移と見通し

人口が減少する地域が多くを占める

～2015年以降の5年間では、人口が減少したのは37市町村と8割を超える～

県内市町村別人口の増減率（2010→2015年、2015→2020年）

2015→2020年の人口増減

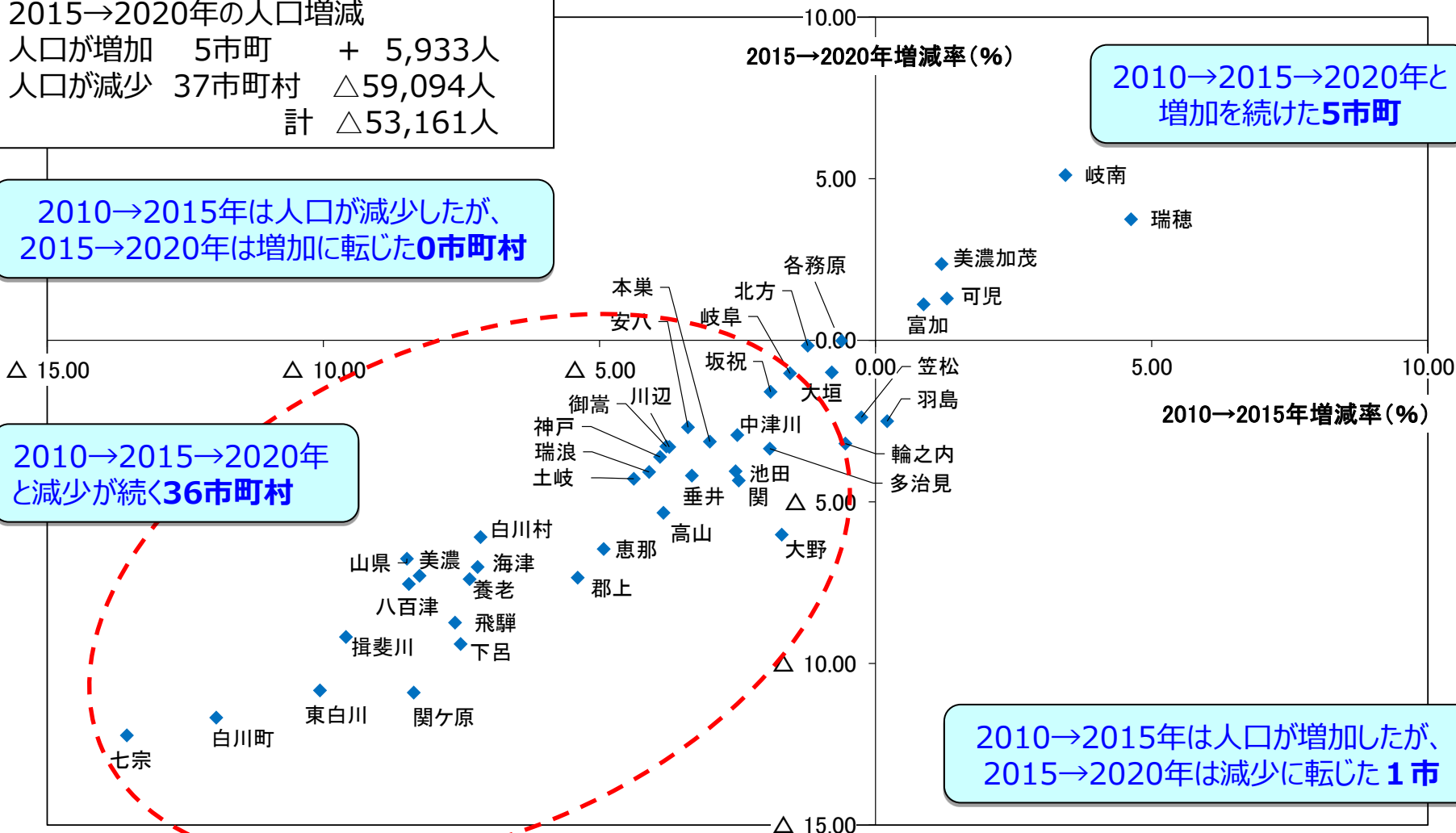
人口が増加 5市町 + 5,933人
人口が減少 37市町村 △59,094人
計 △53,161人

2010→2015年は人口が減少したが、
2015→2020年は増加に転じた0市町村

2010→2015→2020年
と減少が続く36市町村

2010→2015年は人口が増加したが、
2015→2020年は減少に転じた1市

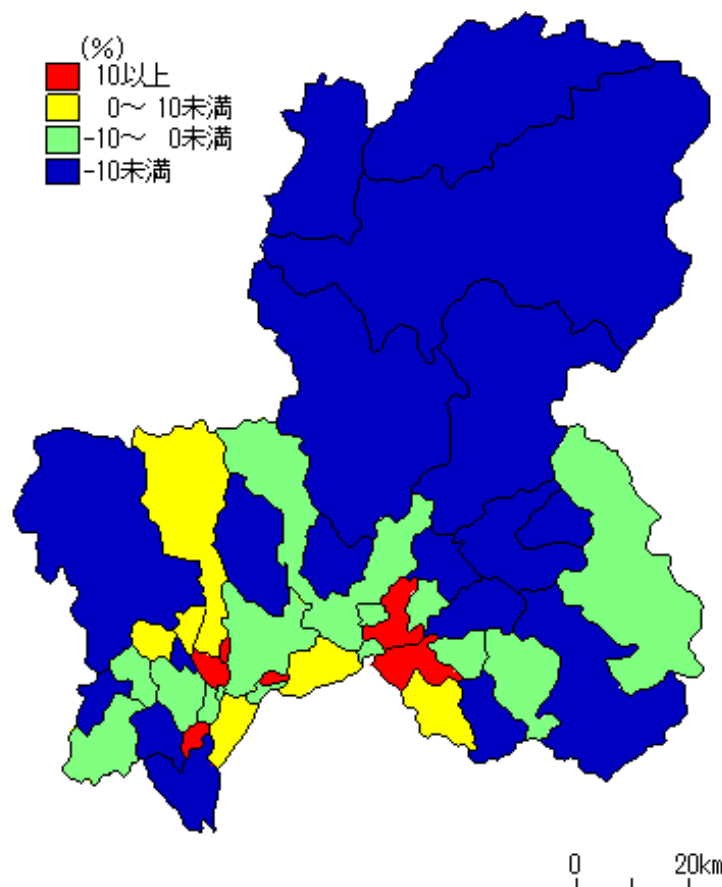
2010→2015→2020年と
増加を続けた5市町



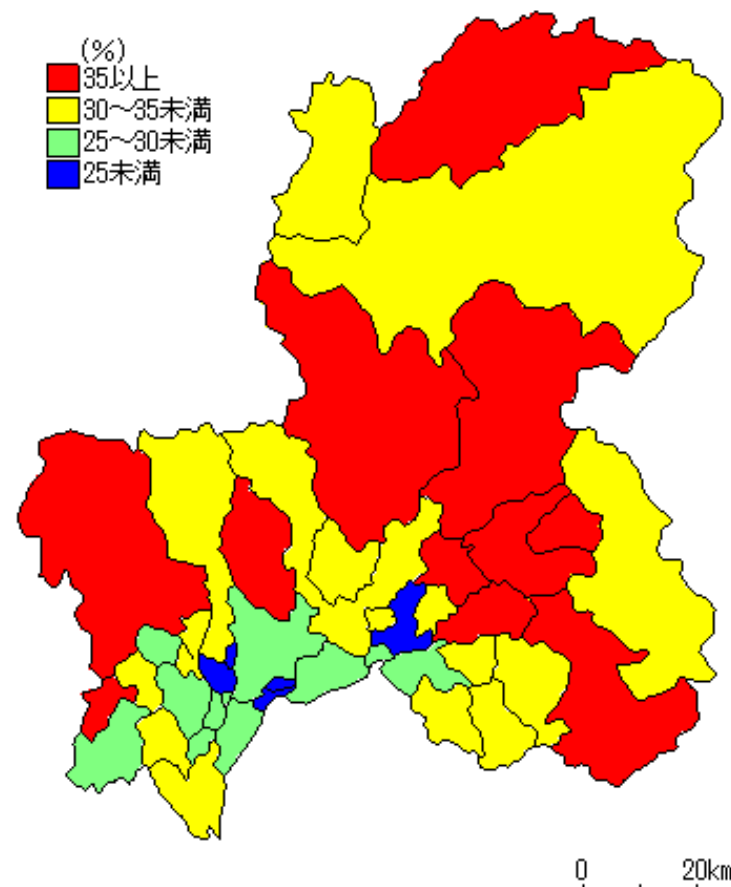
30年前と比較すると、人口が増加した地域は南部に集中 人口が減少した地域では、高齢化が顕著

2020年10月1日現在の市町村

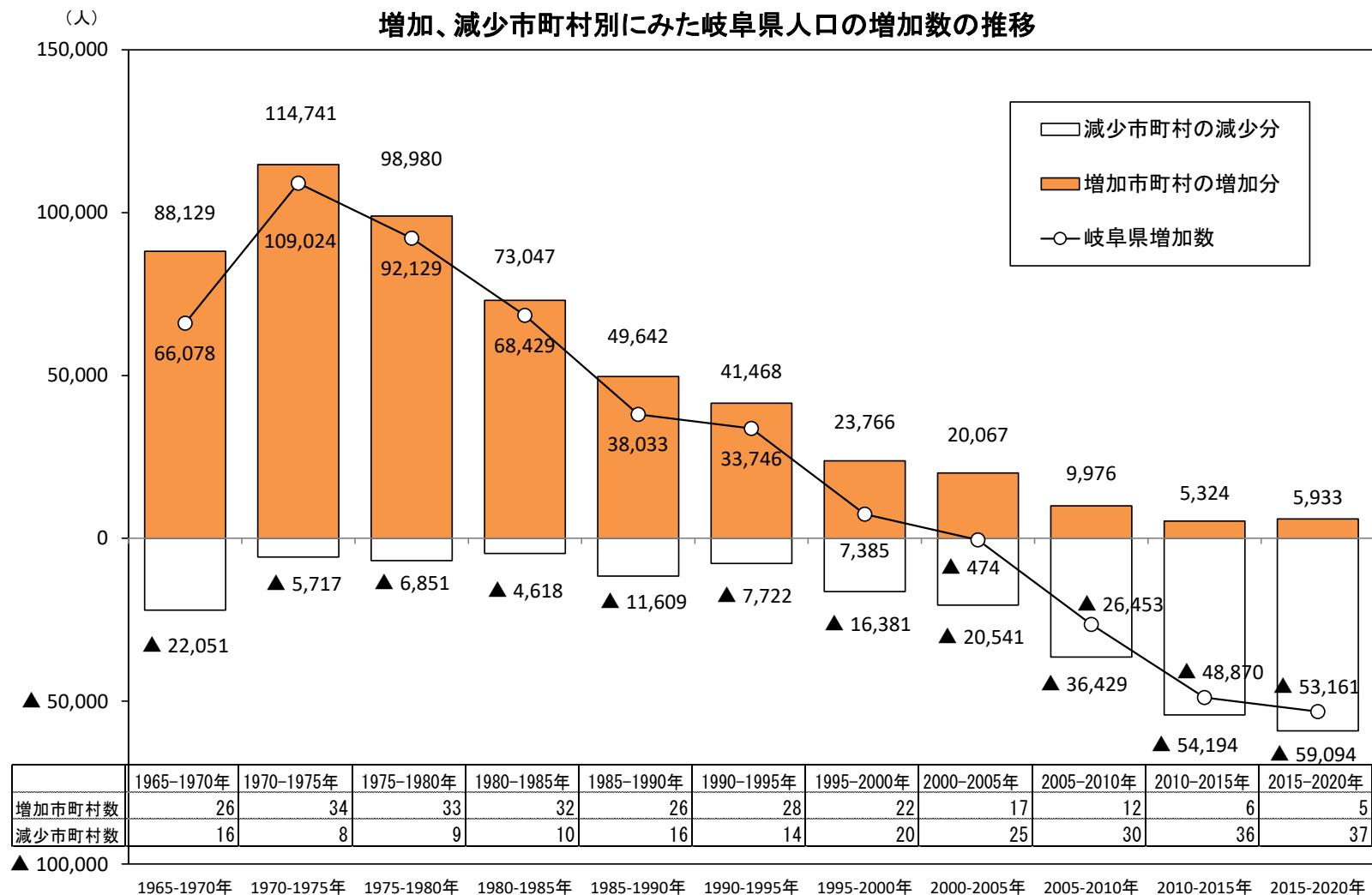
1990年～2020年の人口増減率



2020年の高齢（65歳以上）人口割合



県人口が増加していた時期においても、 人口が減少した市町村が存在した



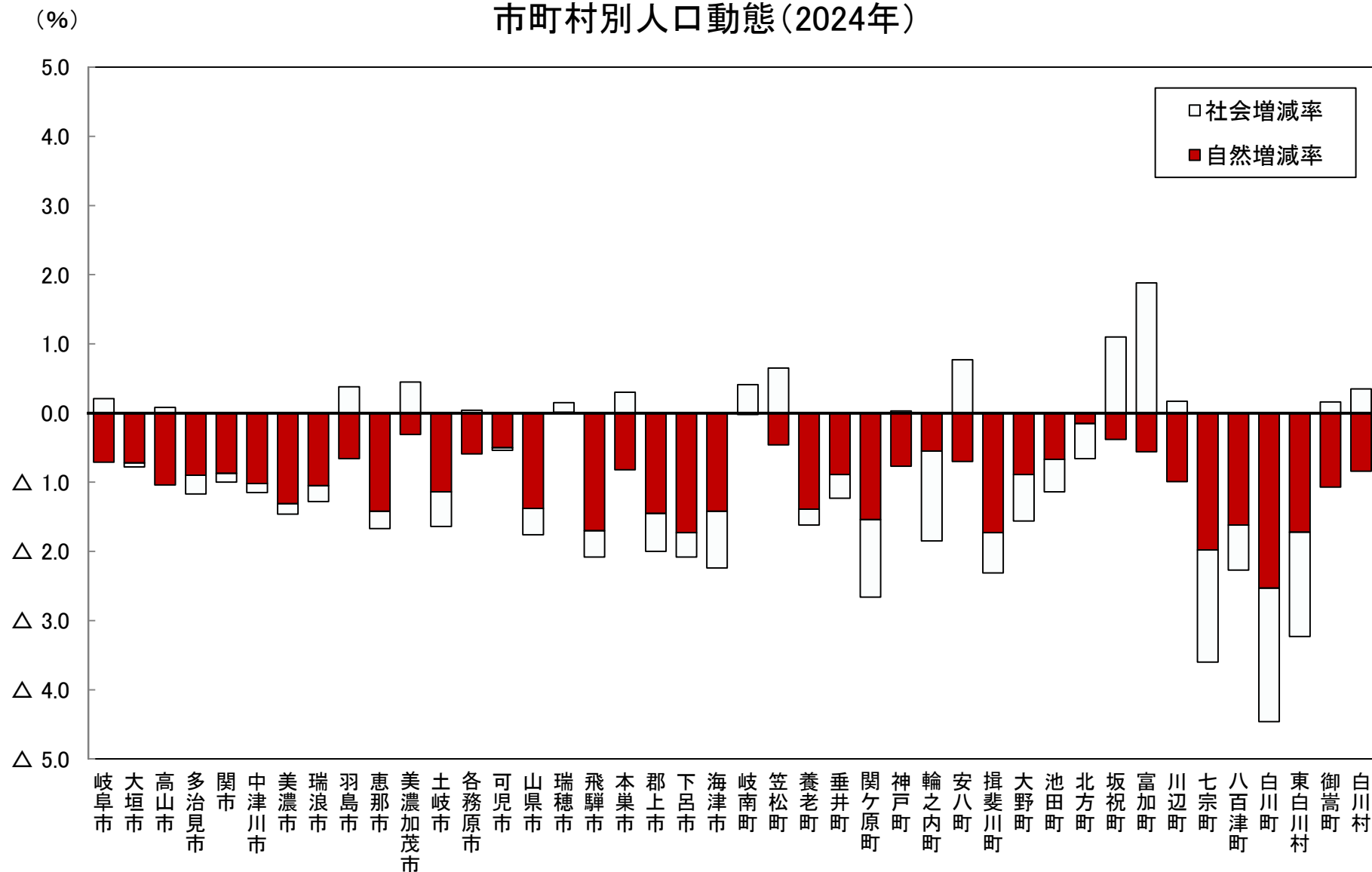
出典: 総務省「国勢調査」

注1: 各調査年の過去5年間の岐阜県の人口増加数を人口が増加した市町村の増加分と人口が減少した市町村の減少分に分けて表した。

注2: 市町村数は、すべての調査年で2020年10月1日現在の42市町村を用いた。

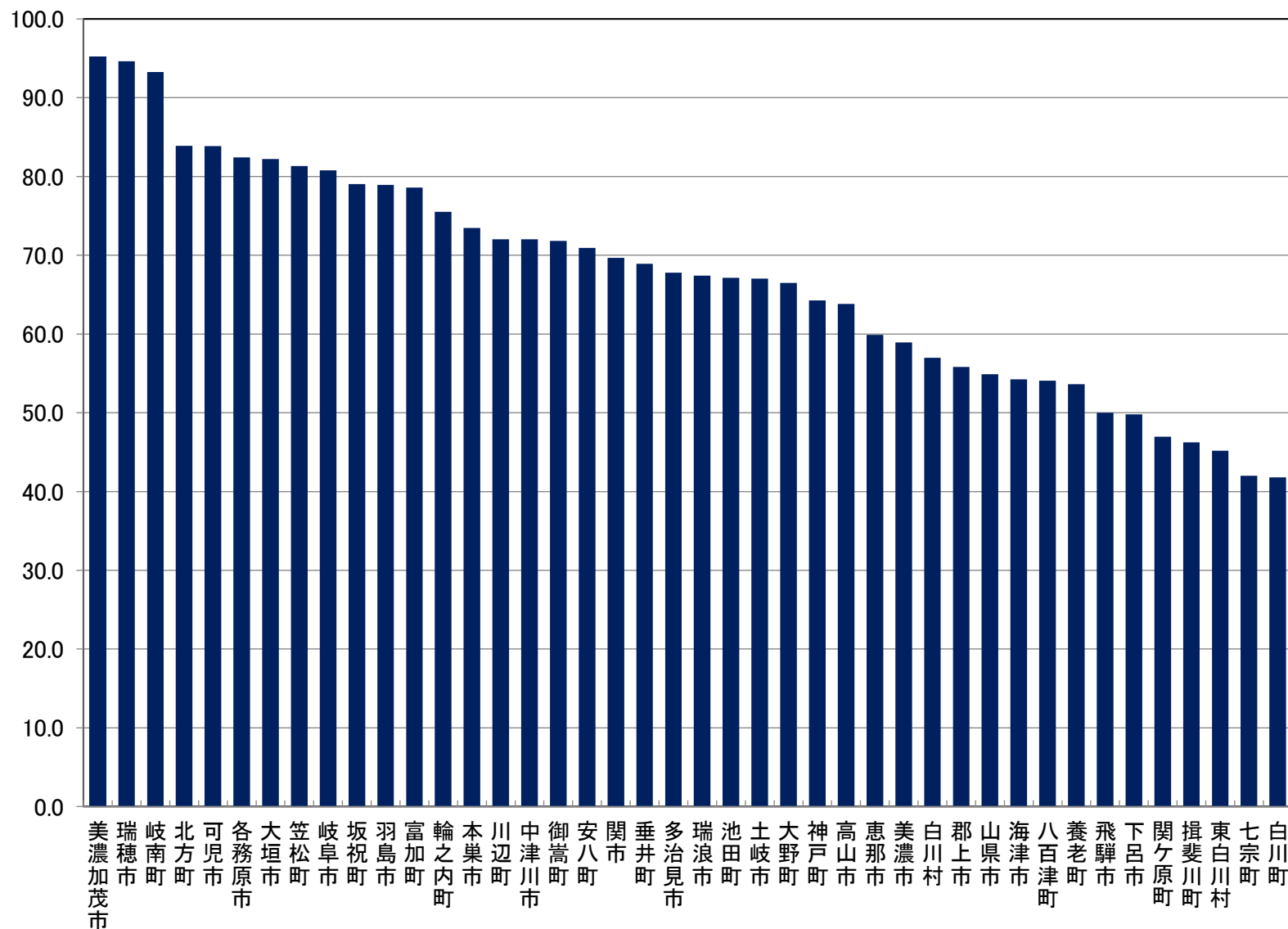
ほとんどの市町村が、自然減少となっている

市町村別人口動態(2024年)



全ての市町村で人口は減少する

2050年における市町村別人口（2020年=100とした指数）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年(2023年)推計）」

※美濃加茂市、瑞穂市は2030年頃にピークを迎え、その後人口減少が続く。

市町村別の将来推計人口 その1

	総人口 2020年 (人)	2020年国勢調査人口						総人口 2050年 (人)	指数 2050年 (2020年=100)	2050年将来推計人口					
		年齢3区分別人口 (人)			年齢3区分別人口割合 (%)					年齢3区分別人口 (人)			年齢3区分別人口割合 (%)		
		0-14歳	15-64歳	65歳以上	0-14歳	15-64歳	65歳以上			0-14歳	15-64歳	65歳以上	0-14歳	15-64歳	65歳以上
県計	1,978,742	242,504	1,133,872	602,366	12.3	57.3	30.4	1,468,392	74.2	143,426	728,848	596,118	9.8	49.6	40.6
岐阜圏域	793,551	98,952	468,048	226,551	12.5	59.0	28.5	644,853	81.3	66,244	334,295	244,314	10.3	51.8	37.9
岐阜市	402,557	47,134	236,235	119,188	11.7	58.7	29.6	325,128	80.8	31,636	166,852	126,640	9.7	51.3	39.0
羽島市	65,649	8,495	38,891	18,263	12.9	59.2	27.8	51,806	78.9	5,145	26,346	20,315	9.9	50.9	39.2
各務原市	144,521	18,863	84,369	41,289	13.1	58.4	28.6	119,096	82.4	12,905	62,388	43,803	10.8	52.4	36.8
山口市	25,280	2,616	13,547	9,117	10.3	53.6	36.1	13,877	54.9	1,045	5,918	6,914	7.5	42.6	49.8
瑞穂市※	56,388	8,628	35,782	11,978	15.3	63.5	21.2	53,347	94.6	6,611	29,947	16,789	12.4	56.1	31.5
本巣市	32,928	4,192	18,656	10,080	12.7	56.7	30.6	24,186	73.5	2,367	11,768	10,051	9.8	48.7	41.6
岐南町※	25,881	3,776	16,207	5,898	14.6	62.6	22.8	24,133	93.2	3,003	13,569	7,561	12.4	56.2	31.3
笠松町	22,208	2,743	13,205	6,260	12.4	59.5	28.2	18,063	81.3	1,899	9,606	6,558	10.5	53.2	36.3
北方町	18,139	2,505	11,156	4,478	13.8	61.5	24.7	15,217	83.9	1,633	7,901	5,683	10.7	51.9	37.3
西濃圏域	358,439	43,505	206,014	108,920	12.1	57.5	30.4	252,390	70.4	23,050	123,673	105,667	9.1	49.0	41.9
大垣市	158,286	20,388	94,160	43,738	12.9	59.5	27.6	130,141	82.2	13,655	68,522	47,964	10.5	52.7	36.9
海津市	32,735	3,272	18,201	11,262	10.0	55.6	34.4	17,756	54.2	1,023	7,420	9,313	5.8	41.8	52.4
養老町	26,882	2,849	14,853	9,180	10.6	55.3	34.1	14,417	53.6	846	6,005	7,566	5.9	41.7	52.5
垂井町	26,402	3,277	14,841	8,284	12.4	56.2	31.4	18,195	68.9	1,677	8,803	7,715	9.2	48.4	42.4
関ヶ原町	6,610	590	3,368	2,652	8.9	51.0	40.1	3,105	47.0	172	1,222	1,711	5.5	39.4	55.1
神戸町	18,585	2,184	10,368	6,033	11.8	55.8	32.5	11,943	64.3	990	5,692	5,261	8.3	47.7	44.1
輪之内町	9,654	1,302	5,781	2,571	13.5	59.9	26.6	7,289	75.5	643	3,747	2,899	8.8	51.4	39.8
安八町	14,355	1,879	8,362	4,114	13.1	58.3	28.7	10,182	70.9	940	4,912	4,330	9.2	48.2	42.5
揖斐川町	19,529	1,993	10,009	7,527	10.2	51.3	38.5	9,033	46.3	649	3,407	4,977	7.2	37.7	55.1
大野町	22,041	2,795	12,617	6,629	12.7	57.2	30.1	14,650	66.5	1,293	6,613	6,744	8.8	45.1	46.0
池田町	23,360	2,976	13,454	6,930	12.7	57.6	29.7	15,679	67.1	1,162	7,330	7,187	7.4	46.8	45.8

※岐南町は2025年頃、瑞穂市は2030年頃にピークを迎え、その後人口減少が続く。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年(2023年)推計）」

注1：2020年の年齢3区分別人口は、年齢不詳を按分した不詳補完値による。

注2：県計（岐阜県）の将来推計人口は、県が独自に推計した結果とは異なる。

市町村別の将来推計人口 その2

	総人口 2020年 (人)	2020年国勢調査人口						総人口 2050年 (人)	指数 2050年 (2020年=100)	2050年将来推計人口					
		年齢3区分別人口 (人)			年齢3区分別人口割合 (%)					年齢3区分別人口 (人)			年齢3区分別人口割合 (%)		
		0-14歳	15-64歳	65歳以上	0-14歳	15-64歳	65歳以上			0-14歳	15-64歳	65歳以上	0-14歳	15-64歳	65歳以上
中濃圏域	364,282	45,975	206,407	111,900	12.6	56.7	30.7	271,770	74.6	27,844	133,266	110,660	10.2	49.0	40.7
関市	85,283	10,503	48,691	26,089	12.3	57.1	30.6	59,419	69.7	5,255	28,266	25,898	8.8	47.6	43.6
美濃市	19,247	2,112	10,149	6,986	11.0	52.7	36.3	11,343	58.9	1,054	5,093	5,196	9.3	44.9	45.8
美濃加茂市※	56,689	8,590	34,811	13,288	15.2	61.4	23.4	53,983	95.2	7,040	29,104	17,839	13.0	53.9	33.0
可児市	99,968	12,971	58,949	28,048	13.0	59.0	28.1	83,832	83.9	8,587	43,136	32,109	10.2	51.5	38.3
郡上市	38,997	4,575	19,801	14,621	11.7	50.8	37.5	21,763	55.8	1,840	8,678	11,245	8.5	39.9	51.7
坂祝町	8,071	1,048	4,756	2,267	13.0	58.9	28.1	6,378	79.0	777	3,195	2,406	12.2	50.1	37.7
富加町	5,626	792	3,017	1,817	14.1	53.6	32.3	4,422	78.6	553	2,133	1,736	12.5	48.2	39.3
川辺町	9,860	1,239	5,462	3,159	12.6	55.4	32.0	7,100	72.0	718	3,468	2,914	10.1	48.8	41.0
七宗町	3,402	283	1,551	1,568	8.3	45.6	46.1	1,429	42.0	89	505	835	6.2	35.3	58.4
八百津町	10,195	999	5,095	4,101	9.8	50.0	40.2	5,514	54.1	435	2,222	2,857	7.9	40.3	51.8
白川町	7,412	586	3,355	3,471	7.9	45.3	46.8	3,098	41.8	149	985	1,964	4.8	31.8	63.4
東白川村	2,016	185	921	910	9.2	45.7	45.1	911	45.2	63	319	529	6.9	35.0	58.1
御嵩町	17,516	2,092	9,849	5,575	11.9	56.2	31.8	12,578	71.8	1,284	6,162	5,132	10.2	49.0	40.8
東濃圏域	323,574	37,660	181,038	104,876	11.6	55.9	32.4	218,234	67.4	19,034	102,898	96,302	8.7	47.2	44.1
多治見市	106,732	12,280	60,983	33,469	11.5	57.1	31.4	72,336	67.8	6,281	33,489	32,566	8.7	46.3	45.0
中津川市	76,570	9,117	42,365	25,088	11.9	55.3	32.8	55,136	72.0	4,887	26,993	23,256	8.9	49.0	42.2
瑞浪市	37,150	4,187	21,302	11,661	11.3	57.3	31.4	25,047	67.4	2,044	12,046	10,957	8.2	48.1	43.7
恵那市	47,774	5,503	25,347	16,924	11.5	53.1	35.4	28,611	59.9	2,354	12,613	13,644	8.2	44.1	47.7
土岐市	55,348	6,573	31,041	17,734	11.9	56.1	32.0	37,104	67.0	3,468	17,757	15,879	9.3	47.9	42.8
飛騨圏域	138,896	16,412	72,365	50,119	11.8	52.1	36.1	81,145	58.4	7,254	34,716	39,175	8.9	42.8	48.3
高山市	84,419	10,554	45,703	28,162	12.5	54.1	33.4	53,862	63.8	5,119	24,076	24,667	9.5	44.7	45.8
飛騨市	22,538	2,393	11,041	9,104	10.6	49.0	40.4	11,268	50.0	843	4,429	5,996	7.5	39.3	53.2
下呂市	30,428	3,264	14,811	12,353	10.7	48.7	40.6	15,154	49.8	1,160	5,781	8,213	7.7	38.1	54.2
白川村	1,511	201	810	500	13.3	53.6	33.1	861	57.0	132	430	299	15.3	49.9	34.7

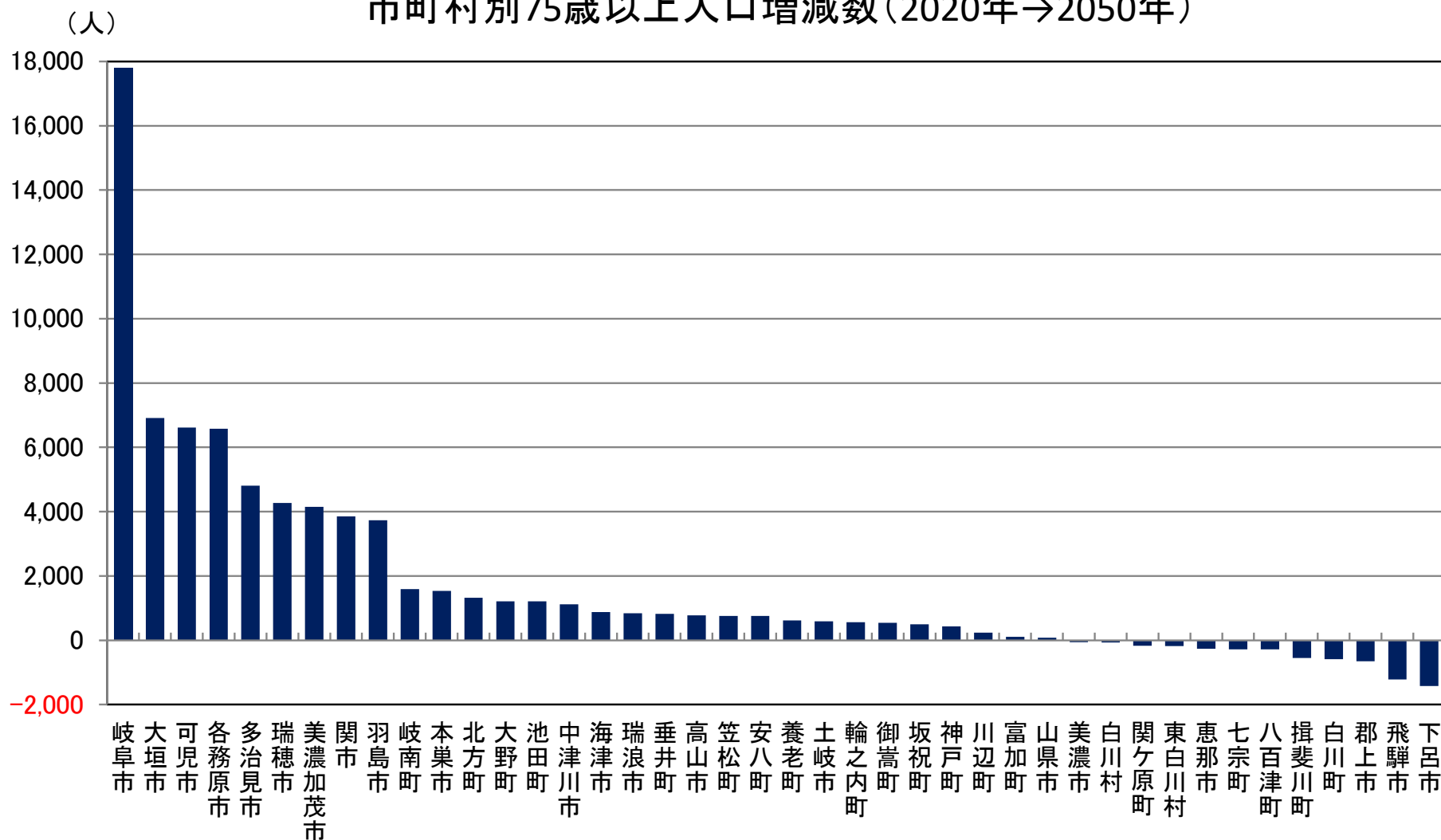
※美濃加茂市は2030年頃ピークを迎え、その後人口減少が続く。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年(2023年)推計）」

注：2020年の年齢3区分別人口は、年齢不詳を按分した不詳補完値による。

将来、高齢者の人口増加が大きいのは都市部

市町村別75歳以上人口増減数(2020年→2050年)



出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023年)推計)」

地域によって人口減少のスピードは異なる

- 日本は人口減少社会に突入した。生まれる子どもより亡くなる人の方が多く（自然減少）、人が減るのはどの地域も同じ傾向。人口減少社会は避けられない。
- 一方で住宅等を理由として、社会動態がプラスの地域もある。同じ県内、同じ市町村内でも、地域によって人口動態は異なり、とりわけ社会移動には違いがある。
- 人口減少のスピードは地域によって異なる。課題も手立ても地域によって違う。
 - ・過疎地など早くから人口減少、最近減少に転じた地域、今後減少する地域など
 - ・都市部では高齢者が急増。人口減少が早い地域では、高齢者も減少に向かう。
- 地域が持つ特徴也大いに違う。地域にしかないモノ、特性、自慢等豊かな個性を持つ。
 - 地域の強みを存分に活かした手立てが必要
 - 製造業が強い地域、観光資源に恵まれた地域、農林業が強い地域、経済の拠点となる都市に近い便利な地域、交通の要となっている地域、大学等の学びの拠点など
- 感覚だけにとらわれず、
冷静にデータ（実数）を見て、議論することが重要。**